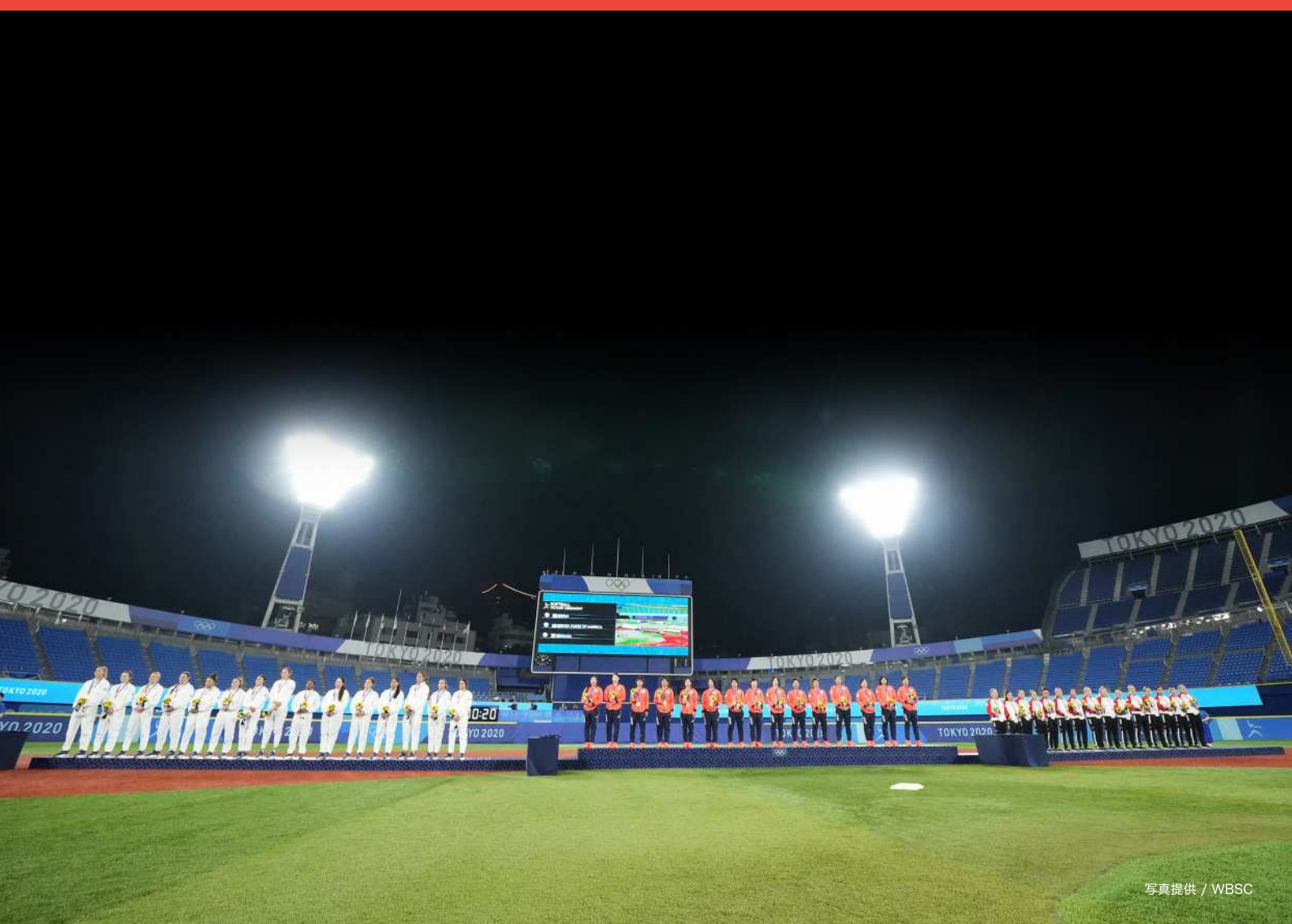




TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES SOFTBALL



CONTENTS / 目次

金メダルへの軌跡 / 試合レポート	
オープニングラウンド 1	オーストラリア戦
オープニングラウンド 2	メキシコ戦
オープニングラウンド 3	イタリア戦
オープニングラウンド 4	カナダ戦
オープニングラウンド 5	アメリカ戦
ゴールドメダルマッチ	アメリカ戦
大会結果・個人成績	
東京 2020 オリンピック 出場選手・スタッフ一覧	
上野由岐子	
後藤希友	
藤田 倭	
我妻悠香	
清原奈侑	
峰 幸代	
渥美万奈	
市口侑果	
川畑 瞳	
内藤実穂	
山本 優	
原田のどか	
森 さやか	
山崎早紀	
山田恵里	
チームスタッフ	
サポートスタッフ & Special Thanks	
強化の足跡 (2008 ~ 2021)	
2008	
2009	
2010	
2011	
2012	
2013	
2014	
2015	
2016	
2017	
2018	
2019	
2020	
2021	
記念誌発刊に寄せて～金メダルの、その先へ	
良き相手、良き仲間がいて (公財) 日本ソフトボール協会 会長 三宅 豊	
「金メダル」の喜びとともに「次なる時代へ」 (公財) 日本ソフトボール協会 専務理事 岡本友章	
東京 2020 オリンピックへ向けた強化の総括と 伝えるべき「オリンピックレガシー」 (公財) 日本ソフトボール協会 選手強化本部長 矢端信介	
金メダルへの道のり～感謝～ 東京 2020 オリンピック 日本代表ヘッドコーチ 宇津木麗華	
大会を支えてくださった皆さん	
Umpire	
Scorer	
Technical Commission	

GAME REPORT
金メダルへの軌跡 / 試合レポート

オープニングラウンド 1 vs Australia
オープニングラウンド 2 vs Mexico
オープニングラウンド 3 vs Italy
オープニングラウンド 4 vs Canada
オープニングラウンド 5 vs U.S.A.
ゴールドメダルマッチ vs U.S.A.
大会結果・個人成績



TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
OPENING ROUND

vs AUSTRALIA

2021.7.21
オープニングラウンド 第1戦 vs オーストラリア
福島ラウンド / 福島あづま球場（福島県福島市）

オーストラリア	1	0	0	0	0		1
日本	1	0	2	3	2x		8

※大会規程により5回得点差コールド

（バッテリー）○上野由岐子（4回 1/3）、後藤希友（2/3）－ 我妻悠香、清原奈侑
（長打）本塁打：内藤実穂、藤田倭、山本優

賛否両論、渦巻く中… 東京 2020 オリンピック開幕！
「1年延期」「無観客開催」異例づくめの大会スタート！！

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「1年延期」となり、「無観客」での開催となった「第32回オリンピック競技大会（東京／2020）ソフトボール競技」が、7月21日（水）、福島県福島市「福島あづま球場」で全競技に先駆け、「開幕」を迎えた。

日本の先発はもちろん「エース」上野由岐子。2008年の北京オリンピックでは獅子奮迅の活躍を見せ、「悲願」の金メダルを獲得。その北京オリンピックの最後の2日間、3試合・28イニングを一人で投げ抜く「連投」「熱投」は「上野の413球」として、その年の「流行語大賞」の審査員特別賞を受賞する等、今もなお語り継がれている。

その北京オリンピックで日本に金メダルをもたらし、ソフトボールにとってオリンピック「最後の一球」を投じた上野由岐子が、「13年」の時を経て、今度は「東京 2020 オリンピック」の開幕を告げる「最初の一球」を投じることになるとは…それだけでも感慨深いものがあった。

そんな感傷、オリンピックという「特別な舞台」に心奪われていたわけでもないだろうが、日本の先発・上野由岐子の制球が定まらず、先頭打者を不運な内野安打で出塁させると、一死後、3連続四死球で「まさか…」の押し出し。オーストラリアに先取点を与えてしまう。

1点を先制された日本はその裏、二死走者なしから3番・内藤実穂が四球を選び、出塁すると、ワイルドピッチで得点圏に走者を進め、4番・山本優がライト前ヒット。二塁走者・内藤実穂が果敢に本塁突入を試み、タイミングは「アウト」かと思われたが、球を保持していない捕手が走者をブロックしたとして「オブストラクション」（走塁妨害）が適用され、日本が1－1の同点に追いついた。

これで息を吹き返した日本は、その直後の2回表、「エース」上野由岐子がオーストラリアの攻撃を三者凡退に斬って取り、試合を落ち着かせると、日本は3回裏、二死ながら敵失で出塁した走者を二塁に置き、3番・内藤実穂が勝ち越しのツーランホームラン！ この「一発」で完全に目覚めた日本打線は4回裏にも6番・藤田倭のツーランホームラン、1番・原田のどかの犠牲フライで3点を追加。5回裏には4番・山本優にもツーランホームラン飛び出し、8－1で5回コールド勝ち！ 大事な初戦を勝利で飾った。



写真提供 / スポーツニッポン新聞社

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
OPENING ROUND



写真提供 / 読売新聞社、毎日新聞社

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES OPENING ROUND

vs MEXICO

2021.7.22

オープニングラウンド 第2戦 vs メキシコ

福島ラウンド / 福島あづま球場（福島県福島市）

メキシコ 0 0 0 0 1 0 1 0 | 2
日本 0 1 0 0 1 0 0 1x | 3

(バッテリー) 上野由岐子 (6回 0/3)、○後藤希友 (2回) - 我妻悠香

(長打) 本塁打: 藤田倭 二塁打: 我妻悠香

延長にもつれ込む「死闘」 ニュースター「覚醒」で日本、2勝目！

第2戦のメキシコ戦は、予想通り「激戦」「死闘」となった。オリンピック「初出場」のメキシコは、初戦でメダル争いの「ライバル」カナダと対戦し、0-4と完敗。オリンピック出場を決めたアメリカ大陸予選ではカナダに勝利してただけに「悔しい敗戦」となった。

初戦、「先発」に起用された「エース」ダジャス・エスコベドが、「オリンピック初出場」の緊張感もあったのか、初回、カナダの「13年前」の2008年北京オリンピックに出場した「歴戦の勇者」ケイリー・ラフター、ジェニファー・サリングに連続タイムリーを浴び、2点を失う等、4イニングで7安打・4失点。打線もわずか2安打に抑え込まれ、「大事な初戦」を落としてしまった。

この日本戦でも、「開幕戦」のオーストラリア戦に続き、「連投」となった日本の「エース」上野由岐子に抑えられ、「左のエース」ダニエジェ・オトゥールが2回裏に藤田倭に先制のソロホームランを浴びる等、「本来の力」を発揮できずにいたのだが……ダニエジェ・オトゥールが日本打線に3回以降、追加点を許さず、踏ん張り、5回表にアニッサ・ウルテスに同点ホームランが飛び出すと、一気に「覚醒」。オリンピック初出場ながら「メダル候補」に挙げられた「実力」をいかに発揮し、陽気に明るく日本に襲いかかってきた。

日本は1-1の同点に追いつかれたその直後の5回裏、今大会「打撃面」で大活躍の「驚異の二刀流」藤田倭の安打からチャンスをつかみ、我妻悠香のタイムリーツーベースで勝ち越し。2-1と再びリードを奪った。

6回まで被安打3、二桁10三振を奪っていた先発・上野由岐子の出来から見て、これで「勝負あった」かと思われたが……。最終回、この回先頭のスザンナ・ブルックシャーへの3球目、ファウルチップが球審を直撃。球審がグラウンド上に倒れ込む事態となり、試合がしばし中断。試合中のアクシデントで球審を責めること等できないが……この「微妙な間」が上野由岐子の「リズム」を狂わせた。

結局、スザンナ・ブルックシャーを四球で歩かせてしまい、次打者にもセンター前に運ばれ、一塁走者が一気に三塁へ進塁。無死一・三塁とチャンスを広げると、メキシコベンチはお祭り騒ぎ。こうなると「ラテン系のノリ」が止まらない。前の打席で同点ホームランを放っているアニッサ・ウルテスがセンター前にタイムリーを放ち、メキシコが土壇場で2-2の同点に追いついた。

ここで日本ベンチが動き、先発・上野由岐子に代え、左腕・後藤希友を投入。同点に追いつかれ、なお無死一・二塁という「絶体絶命」のピンチで、「エース」上野由岐子を諦め、「チーム最年少」の期待の大型左腕にチームの「命運」を託したのだ。この宇津木麗華ヘッドコーチの「決断」、采配が「ズバリ」と的中する。後藤希友は後続をキャッチャーフライ、連続三振に打ち取り、ピンチを脱出。延長タイブレークに入った8回表も、味方守備陣の「ミスプレー」ともいべき守備の不手際で無死二・三塁のピンチを招いたものの、ここも連続三振で二死までこぎつけ、次打者へのカウントが悪くなると、一塁が空いていたことから無理に勝負せず、四球で歩かせ、満塁と塁を詰めた後、ビクトリア・ビダレスを「絶妙」なタイミングで投じたチェンジアップで見逃し三振に斬って取り、またしても「絶体絶命」のピンチを脱出。「神懸かり」的なピッチングでメキシコに傾きかけた試合の「流れ」を断ち切ってくれた。

こうなると試合の「流れ」は日本に傾く。その裏、タイブレークの走者を二塁に置き、我妻悠香が送りバントを失敗した後、動揺することなく冷静に「進塁打」となるセカンドゴロを転がし、一死三塁の「一打サヨナラ」の場面を作った。続く渥美万奈の2球目、ヒットエンドランを敢行。確実にショートに転がし、抜群のスタートを切っていた三塁走者・山田恵里が「サヨナラ」のホームイン！ 粘るメキシコを振り切り、3-2の劇的勝利を収めた。

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES OPENING ROUND



写真提供 / 毎日新聞社、読売新聞社、スポーツニッポン新聞社

2021.7.24

オープニングラウンド 第3戦 vs イタリア

横浜ラウンド / 横浜スタジアム（神奈川県横浜市）

日本 0 0 0 2 0 3 0 | 5
 イタリア 0 0 0 0 0 0 0 | 0

(バッテリー) 後藤希友、藤田倭 (2回 0/3)、○後藤希友 (5回) - 我妻悠香

(長打) 本塁打: 山本優、藤田倭

効果的な「一発攻勢」 2発・5得点で圧勝！

「福島ラウンド」でオーストラリア、メキシコに「連勝」した日本は、「横浜ラウンド」の初戦、イタリアと対戦。イタリアは「福島ラウンド」で「連敗」を喫したものの、アメリカに0-2、オーストラリアに0-1と「予想以上」の試合内容・健闘を見せている。

日本は立ち上がり、イタリアの「18歳」の先発投手・アレッシア・ラカテナに手を焼き、3回までノーヒット。日本は「福島ラウンド」のアメリカ戦、オーストラリア戦で敗れたとはいえ、好投を見せていた「エース」グレタ・チェケットティの先発を「予想」していたこともあってか、完全に抑え込まれてしまった。

日本の「先発」は、スターティングメンバーの発表時点では、メキシコ戦で「神懸かり」的なリリーフを見せ、一躍「時の人」となり、ネット・SNS上では、「神」とまで崇め奉られている後藤希友の名前が記入されていたが、初回の守りにつくと同時に投手交代。5番・DPに起用されていた「驚異の二刀流」藤田倭がFP・後藤希友のピッチャーの守備を兼務し、「実質的な先発投手」となって試合をスタートさせた。これは後藤希友の「勢い」以上に、これまでに世界選手権をはじめ、数々の国際大会を経験してきた藤田倭の「経験と実績」を買っての起用であった。

その藤田倭は初回、先頭打者にセンター前に運ばれ、犠打、レフトフライで二死ながら三塁まで走者を進められたが、4番打者を空振り三振に斬って取り、ピンチを脱出。続く2回裏は三者凡退に抑え、このままリズムに乗るかと思われた。しかし……3回裏、先頭打者に右中間を破るツーベースを浴びたところで、DP・藤田倭のピッチャーの守備の兼務を解除。DP・藤田倭は本来の「打撃専門」の選手に戻り、FP・後藤希友をピッチャーとして「再出場」させ、登板させた。

後藤希友は後続を空振り三振、セカンドゴロ、ショートゴロに打ち取り、無失点でピンチを切り抜け、メキシコ戦に続く「好リリーフ」を見せた。

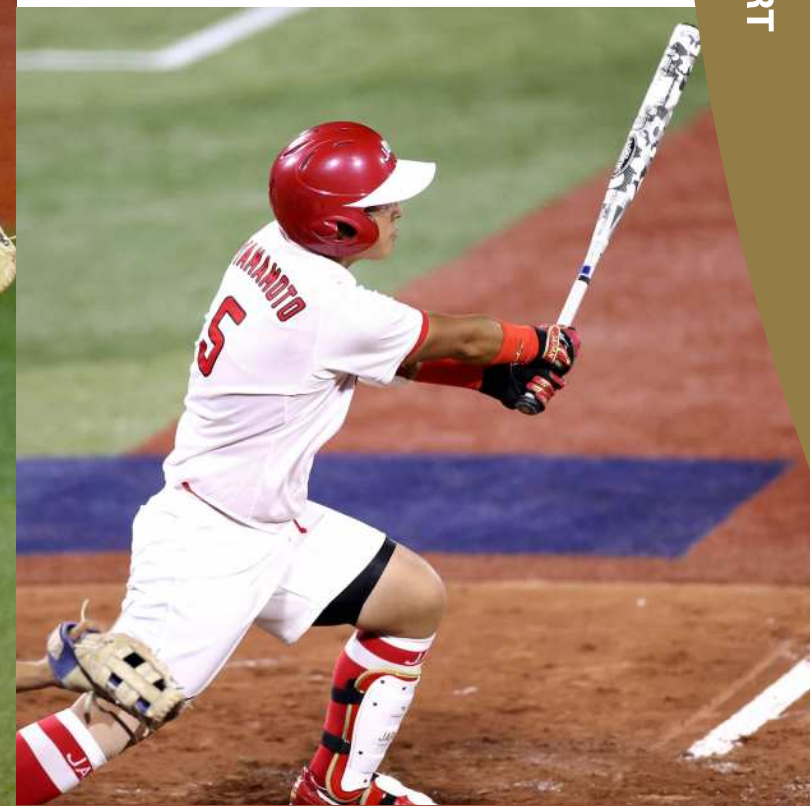
この後藤希友の「好リリーフ」が試合の流れを変え、その直後の4回表、この回先頭の原田のどかが四球を選び、出塁すると、一死後、「主砲」山本優に右中間スタンドへ突き刺すツーランホームランが飛び出し、2点を先制した。

終盤6回表には、内藤実穂、山本優の連打で一死・三塁の追加点のチャンスを作ると、「驚異の二刀流」藤田倭が「3戦連発」となるスリーランホームランをレフトスタンドへ豪快に叩き込み、決定的な3点を追加。イタリアの息の根を止めた。

守っては、3回裏、無死二塁の場面で登板した後藤希友が5イニングを投げる「ロングリリーフ」。被安打1・奪三振9の「力投」でイタリア打線に最後まで得点を許さず、5-0と快勝！ 開幕から「無傷」の3連勝を飾った。

4回表の「主砲」山本優は「右方向」へも「長打」を打てる「山本優らしさ」を感じさせる「一発」であり、膠着状態にあったチームに「喝」を入れてくれた。「ここで一本！」というときに打ってくれる、まさに「主砲」の面目躍如、その「存在感」を発揮する「一発」だった。

6回表の藤田倭の「3戦連発」の一発は、これも「藤田倭らしい」レフトスタンドへ豪快に運ぶ「一発」。「投打二刀流」の藤田倭としては、後藤希友という「ニュースター」が彗星の如く現れたことで、大会前に期待されていた「上野由岐子に次ぐ存在」の役割を持っていかれてしまい、忸怩たる思いがあるかもしれないが、打撃面で「お釣りがくる」ほどの活躍を見せている。



写真提供 / 毎日新聞社、読売新聞社

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
OPENING ROUNDvs CANADA

2021.7.25

オープニングラウンド 第4戦 vs カナダ

横浜ラウンド / 横浜スタジアム (神奈川県横浜市)

カナダ 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0
 日本 0 0 0 0 0 0 0 1x | 1

(バッテリー) 上野由岐子 (6回)、○後藤希友 (2回) - 我妻悠香
 (長打) なし



息詰まる「投手戦」を展開… 「レジェンド」のサヨナラ打で銀メダル以上確定

「横浜ラウンド」第2戦のカナダ戦は、勝てば「ゴールドメダルマッチ」(決勝)進出、「銀メダル以上」が確定する「大一番」となった。対戦相手のカナダもここまで2勝1敗で、この日本戦に勝てば「ゴールドメダルマッチ」(決勝)進出の可能性もあるとあって、立ち上がりから緊迫した試合展開となった。

日本の先発は「エース」上野由岐子。序盤から安定したピッチングを見せ、2回表には金属バットを真っ二つにへし折る場面も……。5回表に、この回の先頭打者にセンターオーバーのツーベースを浴び、一死三塁のピンチを招く場面もあったが、落ち着いて後続を断ち、カナダに得点を許さない。

一方、日本打線もチェンジアップを多投し、小刻みな投手リレーで目先を変えてくるカナダ投手陣を打ちあぐみ、両チームゼロ行進。0-0のまま、試合は終盤を迎えた。

日本は7回表から、今大会「売り出し中」の後藤希友を投入。7回表、延長タイブレークに入った8回表と打者6人をすべて「三振」に斬って取る「奪三振ショー」を繰り広げ、カナダ打線に得点を許さない。

打線もようやく投手陣の「力投」に応える。延長8回裏、タイブレークの走者を手堅く送ると、カナダが「満塁策」を取り、二者連続の「故意四球」。この目の前の「満塁策」に燃えた「キャプテン」山田恵里が「意地」のサヨナラタイムリーを放ち、熱戦にピリオド。劇的な勝利で最終戦を待たずに「ゴールドメダルマッチ」(決勝)進出と「銀メダル以上」を確定させた。

この試合の先発・上野由岐子は「さすが!」のピッチング。2回表、一死一塁では相手打者の金属バットを真っ二つにへし折る等、「剛球健在」をアピール! その一方で打者の手元で微妙に変化させるボールを自在に操る「進化形」のピッチングも披露し、6回を無失点。「エース」の貫禄を見せると同時に「先発」としての「役割」をしっかりと果たして見せた。7回表、この回の先頭打者がセンターオーバーの二塁打を含む2安打を放ち、唯一、上野由岐子にタイミングの合っていたジェニファー・サリングで、しかも「左打者」ということもあって「左腕」後藤希友にマウンドを譲ったが、まだまだ「余力」は残しての降板だった。

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
OPENING ROUND

写真提供 / WBSD

その「エース」からしっかりと「バトン」を受け継ぎ、今大会の話題をさらっている「ニュースター」後藤希友が7回表、延長タイブレークに入った8回表と、対戦した打者「すべて」を三振に斬って取る「6連続三振」の「完璧」「圧巻」のピッチングで、日本に試合の「流れ」を引き寄せて見せた。

打撃面では、カナダのチェンジアップを多投し、小刻みにつなぐ投手リレーにかわされ、なかなか「決定打」が出ず、苦戦を強いられたが、最後は「キャプテン」山田恵里が決めてくれた。延長8回裏、日本は「主砲」山本優がキッチリと送りバントを決め、一死三塁の「一打サヨナラ」のチャンスを作ると、カナダ守備陣は藤田俊、山崎早紀を「故意四球」で歩かせ、「満塁策」を選択。7回裏にも「満塁策」を選択し、同じような「一打サヨナラ」の場면을切り抜けたことで「味をしめた」わけではないだろうが……山田恵里がセンターにはじき返し、歓喜のサヨナラ! 日本は最終戦を待たずに「ゴールドメダルマッチ」(決勝)進出、「銀メダル以上」が確定した。

正直、「満塁」で山田恵里を打席に迎えた時点で「勝負」は見えていた。「レジェンド」山田恵里に対し、目の前での二人連続の「故意四球」「満塁策」はさすがに「礼」を失した行為であり、こんな「非礼」を山田恵里が許すわけがなかった。結果は、鮮やかで綺麗なセンター前ヒット。山田恵里らしい高いバッティング技術、芸術的なバットコントロールに裏付けられた「劇的」なサヨナラ安打だった。

これで「横浜ラウンド」の最終戦は、日本、アメリカともに「ゴールドメダルマッチ」(決勝)進出、「銀メダル以上」が確定した状態での対戦となり、この試合自体の「勝敗」はさして意味はないものとなった。両チームが、この試合をどうとらえ、どう戦うのか……に注目したいところだ。どちらにしても「ゴールドメダルマッチ」(決勝)を見据えた試合、水面下での心理戦、高度な駆け引きが絡み合う試合となることは間違いなさそうだ。

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES OPENING ROUND

vs U.S.A.

2021.7.26

オープニングラウンド 第5戦 vs アメリカ
横浜ラウンド / 横浜スタジアム (神奈川県横浜市)

日本 1 0 0 0 0 0 0 | 1
アメリカ 0 0 0 0 0 1 1x | 2

(バッテリー) ●藤田倭 (6 回 0/3) – 峰幸代
(長打) なし



「金メダル」を見据えた戦い、「前哨戦」はアメリカに軍配

オープニングラウンド (予選リーグ) 「横浜ラウンド」も最終日を迎え、すでに「ゴールドメダルマッチ」(決勝) 進出、「銀メダル以上」が決まっている日本とアメリカが対戦した。

翌日 (7月27日/火) に「ゴールドメダルマッチ」(決勝) で「金メダル」をかけて対戦するとあって、日本の先発は藤田倭。アメリカも「今大会初登板」となるアリソン・カルダを先発させ、試合がはじまった。

先攻の日本は初回、そのアリソン・カルダの立ち上がりを攻め、相手守備の乱れから1点を先制すると、先発・藤田倭が5回までアメリカ打線を「ノーヒット」に抑える好投。このまま逃げ切るかと思われたが、6回表、3安打を集中され、1-1の同点に追いつかれてしまい、最終回、この回先頭のケルシー・スチュワートにサヨナラホームランを浴び、1-2の逆転負け。日本は今大会「初黒星」でオープニングラウンド (予選リーグ) 4勝1敗の2位となり、5戦全勝で1位のアメリカと「ゴールドメダルマッチ」(決勝) で「金メダル」をかけ、「再戦」することになる。

今大会、「驚異の二刀流」と呼ばれながら「打者」としての活躍ばかりが目立っていた藤田倭だが、この試合では「持ち味」を存分に発揮。「エース」上野由岐子に次ぐ存在として期待されながら、なかなか登板機会に恵まれなかった鬱憤を晴らすかのように5回まで「ノーヒット」の好投。「意地」を見せると同時に、「ゴールドメダルマッチ」(決勝) へ向け、「エース」上野由岐子、開幕から4連投と「フル回転」してきた後藤希友に「休養」とらせ、アメリカ打線の「現状」「調子」を実際の試合で対峙しながら確認するという「役割」をしっかりと果たしてくれた。

その藤田倭の力投によって明らかになったのは、今大会のアメリカ打線は決して「本調子」ではない、ということである。初戦のイタリア戦が2-0、続くカナダ戦が1-0、第3戦のメキシコ戦が2-0、第4戦のオーストラリア戦が2-1と、2点以上取った試合がなく、本塁打は「0」。この日本戦のサヨナラホームランでようやく今大会「初ホームラン」が飛び出しはしたが、いつものような「迫力」は感じられない。このアメリカ打線であれば、日本の「エース」上野由岐子、「ニュースター」後藤希友の力を持ってすれば十分に抑えられる。その上、藤田倭にもアメリカ打線に通用する目処が立ったという意味では、試合の勝敗を超えた「収穫」のあった試合といえるだろう。

打線もこの試合に関しては、アリソン・カルダの勢いのある投球に押され気味ではあったが、アメリカが誇る「Wエース」キャサリン・オスターマン、モニカ・アボットの両左腕に対する「対策」は練りに練ってきており、あとは「本番」でその成果を出すだけ、という状態になっている。

現在、「世界ランキング1位」の日本の男子ソフトボールが全面協力。それこそ「世界トップクラス」の男子ピッチャーを打ち込んできた。アメリカの「Wエース」の球種、球筋を映像で分析する一方、日本が誇る映像技術でそれを再現し、VR (バーチャルリアリティ) で常にその「特徴」や「攻略法」をイメージできるよう、環境が整えられ、それらを活用した練習も積み重ねてきた。あとはその練習の成果を「金メダル」のかかった「ゴールドメダルマッチ」(決勝) で出すだけでいい。「準備」はすべて整っている。

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES OPENING ROUND



写真提供 / 毎日新聞社、読売新聞社

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES GOLD MEDAL MATCH

vs U.S.A. 

2021.7.27

ゴールドメダルマッチ（決勝） vs アメリカ

横浜スタジアム（神奈川県横浜市）

日本 0 0 0 1 1 0 0 | 2
アメリカ 0 0 0 0 0 0 0 | 0

（バッテリー）○上野由岐子（5回 0/3）、後藤希友（1回）、上野由岐子（1回）－我妻悠香
（長打）二塁打：山崎早紀

「宿敵」アメリカを撃破！ 13年越し2大会連続の金メダル獲得！

13年越しとなる「2大会連続の金メダル獲得」をめざす日本は、ゴールドメダルマッチ（決勝）で、オープニングラウンド（予選リーグ）で唯一敗れた「宿敵」アメリカと「再戦」。奇しくもその2008年北京オリンピック・ゴールドメダルマッチ（決勝）とまったく同じ先発投手の起用となり、日本は上野由岐子、アメリカはキャサリン・オスターマン、両エースの投げ合いで試合はじまった。

先攻の日本は初回、この試合「1番」に起用された山田恵里がいきなりのピッチャー強襲安打。完璧にとらえた当たりではなかったが、チームに「やれる！」「打てる！！」の「勇気」を与えるには十分の一打だった。結局、この回は得点圏に走者を進めたものの、無得点に終わったが、三振は「0」。オープニングラウンド（予選リーグ）で「三振の山」を築いてきたキャサリン・オスターマンにしぶとく食らいつき、「日本はやはりこれまでの相手とは違う……」とアメリカにプレッシャーをかけるスタートとなった。

その裏、日本の先発・上野由岐子がいきなりピンチを招く。先頭打者をファーストゴロに打ち取った後、2番・ジャンネ・リードにセンター頭上を襲う、あわや本塁打かという当たりの三塁打を浴び、一死三塁。続く3番・アマンダ・チデスターへの空振り三振となる投球がワンバウンドとなり、キャッチャー・我妻悠香が後逸。それを見た三塁走者が本塁突入を試みたが、クッションボールが我妻悠香の正面に跳ね返り、素早く本塁ベースカバーに入った上野由岐子が三塁走者を本塁す前タッチアウト。見事なカバーリングと関係プレーでピンチを脱した。

日本は2回表、6番・山崎早紀が今大会「初安打」となるツーベースを放ち、出塁するが後続なく、無得点。3回表、この回先頭の9番・渥美万奈が四球を選ぶと早くもアメリカベンチが動き、「エース」キャサリン・オスターマンを降板させ、2番手・アリソン・カルダを投入。「エース」キャサリン・オスターマンを早々に交代させる「決断」を下した。結果的に、この「決断」が「裏目」に出る。4回表、この回先頭の5番・藤田優がセンター前ヒットで出塁。6番・山崎早紀が手堅く犠打で走者を二塁へ進め、7番・我妻悠香のピッチャーゴロの間に二塁走者が三塁まで進塁。8番・市口侑果がフルカウントまで粘って四球を選び、二死ながら一・三塁とチャンスを広げると、9番・渥美万奈の人工芝を利用し、叩きつけた打球がセカンド前に転がり、一塁へ「執念」のヘッドスライディング。これが内野安打となり、「クールビューティー」「フィールドの貴公子」の異名を取る華麗なプレーが信条の渥美万奈が見せた「泥臭いプレー」で日本に待望の先取点がもたらされた。

先取点を奪い、意気上がる日本は、続く5回表、二死走者なしから4番・山本優がセンター前にはじき返すヒットで出塁。ここでアメリカベンチが動き、「もう一人のエース」モニカ・アボットを投入。しかし……いきなりワイルドピッチで走者を二塁へ進めてしまい、5番・藤田優がライト前にタイムリー！ 二塁走者が還り、貴重な追加点を挙げ、日本が2-0とリードを広げた。

2点のリードをもらった上野由岐子は、立ち上がりこそナイトゲームでキャッチャーのサインが良く見えず、サイン違いで後逸……とバタバタするシーンも見られたが、2回以降は毎回のよう投球フォームを変え、試行錯誤しながらもアメリカ打線をノーヒット・無得点に抑え、6回裏、先頭打者に安打を浴びたところで今大会「神懸かり」的な活躍を続けてきた左腕・後藤希友にバトン託した。しかし……アメリカ打線がその後藤希友に襲いかかり、空振り三振で一死となった後、2番・ジャンネ・リードに「力」で運ばれ、二遊間を抜けるヒット。これまで左打者に効果的だった左打者の懐にシュート、スクリュウ気味に食い込むボールをセンター前に運ばれ、一死一・二塁とされると、3番・アマンダ・チデスターがチェンジアップに体勢を崩されながらも強烈な打球を放つ！ サード・山本優が反応したものの、左腕に当たって三遊間へ打球が舞い、「やられた！」と誰もが思った次の瞬間、あらかじめ三遊間寄りにポジションを取っていたショート・渥美万奈がダイレクトキャッチ。素早く反転して二塁へ送球すると、飛び出していた二塁走者は戻れず……。大会後、「神ゲッター」と話題沸騰、世界中で反響を呼んだ「スーパープレー」で日本がピンチを脱し、2-0とリードを保ったまま、試合は最終回を迎えた。

最終回、日本は「エース」上野由岐子が再出場・再登板。満を持して登板した「エース」は最終回にようやく「これだ！」という投球フォームを見つけ出し、「無敵」「無双」の状態に。アメリカの最後の攻撃を、センターフライ、ファーストゴロ、キャッチャーファウルフライの三者凡退に打ち取り、ゲームセット！ 13年越しの「夢」を叶え、2大会連続の「金メダル」を獲得した。



写真提供 / 毎日新聞社、読売新聞社

- 最終順位
- 1 日本
 - 2 アメリカ
 - 3 カナダ
 - 4 メキシコ
 - 5 オーストラリア
 - 6 イタリア



写真提供 / 毎日新聞社

● オープニングラウンド戦績・順位

チーム名	日本	アメリカ	カナダ	メキシコ	オーストラリア	イタリア	勝	負	得点	失点	順位
日本		● 1 - 2	○ 1 - 0	○ 3 - 2	○ 8 - 1	○ 5 - 0	4	1	18	5	2
アメリカ	○ 2 - 1		○ 1 - 0	○ 2 - 0	○ 2 - 1	○ 2 - 0	5	0	9	2	1
カナダ	● 0 - 1	● 0 - 1		○ 4 - 0	○ 7 - 1	○ 8 - 1	3	2	19	4	3
メキシコ	● 2 - 3	● 0 - 2	● 0 - 4		○ 4 - 1	○ 5 - 0	2	3	11	10	4
オーストラリア	● 1 - 8	● 1 - 2	● 1 - 7	● 1 - 4		○ 1 - 0	1	4	5	21	5
イタリア	● 0 - 5	● 0 - 2	● 1 - 8	● 0 - 5	● 0 - 1		0	5	1	21	6

1 位・2 位のチームがゴールドメダルマッチへ、3 位・4 位のチームがブロンズメダルマッチへ

- ブロンズメダルマッチ カナダ 3－2 メキシコ
- ゴールドメダルマッチ 日本 2－0 アメリカ

○ 投手 個人成績 / オープニングラウンド・ゴールドメダルマッチ合計

UN	選手名	右/左	防御率	勝	負	試合数	投球回数	被安打	失点	自責点	与四球	奪三振	二塁打	三塁打	本塁打	被打率	暴投	与死球	不正投球	犠打	犠飛
27	後藤希友	左	0.00	3	-	5	10⅔	3	-	-	3	22	-	-	-	0.088	-	3	-	-	-
17	上野由岐子	右	0.94	2	-	4	22⅓	13	3	3	6	26	2	1	1	0.169	3	4	-	-	-
16	藤田 倭	右	1.75	-	1	2	8	6	2	2	3	5	1	-	1	0.222	-	2	-	1	-
	チーム合計		0.85	5	1	6	41	22	5	5	12	53	3	1	2	0.159	3	9	-	1	-

○ 打撃・守備 個人成績 / オープニングラウンド・ゴールドメダルマッチ合計

UN	選手名	打率	試合数	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打点	四球	死球	三振	犠飛	犠打	盗塁	刺殺	捕殺	失策	守備率
16	藤田 倭	0.389	6	18	4	7	-	-	3	7	1	-	1	-	-	-	3	2	-	1.000
5	山本 優	0.333	6	18	4	6	-	-	2	5	-	-	5	-	1	-	3	10	-	1.000
14	内藤実穂	0.200	6	15	4	3	-	-	1	2	3	-	4	-	2	-	46	2	-	1.000
2	山崎早紀	0.063	6	16	2	1	1	-	-	-	1	-	3	-	1	-	2	-	-	1.000
8	原田のどか	0.059	6	17	2	1	-	-	-	1	2	1	3	1	-	-	4	-	-	1.000
11	山田恵里	0.357	6	14	2	5	-	-	-	1	-	-	3	-	1	-	1	-	-	1.000
12	渥美万奈	0.300	6	10	-	3	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	4	13	-	1.000
10	川畑 瞳	0.250	6	8	2	2	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	5	5	-	1.000
1	峰 幸代	0.250	2	4	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	1.000
9	森 さやか	0.250	4	4	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
25	我妻悠香	0.200	5	10	-	2	1	-	-	1	1	-	1	-	3	-	47	4	-	1.000
4	市口侑果	0.154	5	13	-	2	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	3	4	-	1.000
21	清原奈侑	0.000	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1.000
27	後藤希友	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1.000
17	上野由岐子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7	-	1.000
	チーム合計	0.230	6	148	20	34	2	-	6	19	11	1	26	1	9	1	123	48	-	1.000

TEAM JAPAN
出場選手・スタッフ一覧

- 上野由岐子
後藤希友
藤田 倭
我妻悠香
清原奈侑
峰 幸代
渥美万奈
市口侑果
川畑 瞳
内藤実穂
山本 優
原田のどか
森 さやか
山崎早紀
山田恵里
チームスタッフ
サポートスタッフ



TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

PITCHER / 投手 上野由岐子 17 Yukiko UENO

【今大会成績】

- 出場試合数：4
- 勝敗：2勝0敗
- 失点：3
- 被安打：13
- 投球回数：22回 1/3
- 防御率：0.94
- 自責点：3
- 奪三振：26

【投・打】右投右打

- 【所属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
- 【生年月日】1982.7.22
- 【出身地】福岡
- 【出身校】福岡大附属若葉高（福岡）
- 【身長】174cm

13年越し、2大会連続金メダル！
「主役」はやっぱりこの人だった…

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'99Jr、'02世・ア、'04オ、'06世・ア、'08オ、'10ア、'12世、'14世・ア、'18世・ア

【主な国内大会の成績】中学／全国中学校大会優勝（'97）、
日本リーグ優勝（'02、'03、'05、'08、'09、'13、'15、'17、'19、'20、'21）
全日本総合選手権優勝（'01、'03、'04、'05、'06、'07、'08、'09、'11、'12、'16、'18、'21）

【日本リーグ個人賞受賞歴】MVP 8回、最優秀防御率賞 6回、最多勝 8回、ベストナイン 6回、新人賞

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ） 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会 オ＝オリンピック

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

PITCHER / 投手 後藤希友 27 Miu GOTO

【今大会成績】

- 出場試合数：5
- 勝敗：3勝0敗
- 失点：0
- 被安打：3
- 投球回数：10回 2/3
- 防御率：0.00
- 自責点：0
- 奪三振：22

【投・打】左投左打

- 【所属】トヨタ自動車 レッドテリアーズ
- 【生年月日】2001.3.2
- 【出身地】愛知
- 【出身校】東海学園高（愛知）
- 【身長】173cm

「ニューヒロイン」颯爽登場！
金メダルへ導く「神リリーフ」

写真提供 / スポーツニッポン新聞社

【国際大会出場歴】'19Jr

【主な国内大会の成績】中学／都道府県対抗全日本中学生大会優勝（'15）
全日本総合選手権優勝（'19）

【日本リーグ個人賞受賞歴】MVP 1回、最多勝 1回、新人賞

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ）

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

PITCHER / 投手 藤田 倭 16 Yamato FUJITA

【今大会成績】

- 出場試合数：6 ● 投球回数：8回
- 勝敗：0勝1敗 ● 防御率：1.75 ● 奪三振：5
- 打率：.389 (18打数7安打)
- 本塁打：3 ● 打点：7

【投・打】右投右打

- 【所 属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
- 【生年月日】1990.12.18
- 【出身地】大阪
- 【出身校】佐賀女子短期大付属佐賀女子高（佐賀）→ 太陽誘電
- 【身長】165cm



エースを支えた二刀流！
大会 MVP に輝く大活躍！！



写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'12世、'14世・ア、'16世、'18世・ア

【主な国内大会の成績】高校／インターハイ優勝（'06）
日本リーグ優勝（'21）
全日本総合選手権優勝（'21）

【日本リーグ個人賞受賞歴】MVP1回、最多勝3回、本塁打王1回、打点王1回

※世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

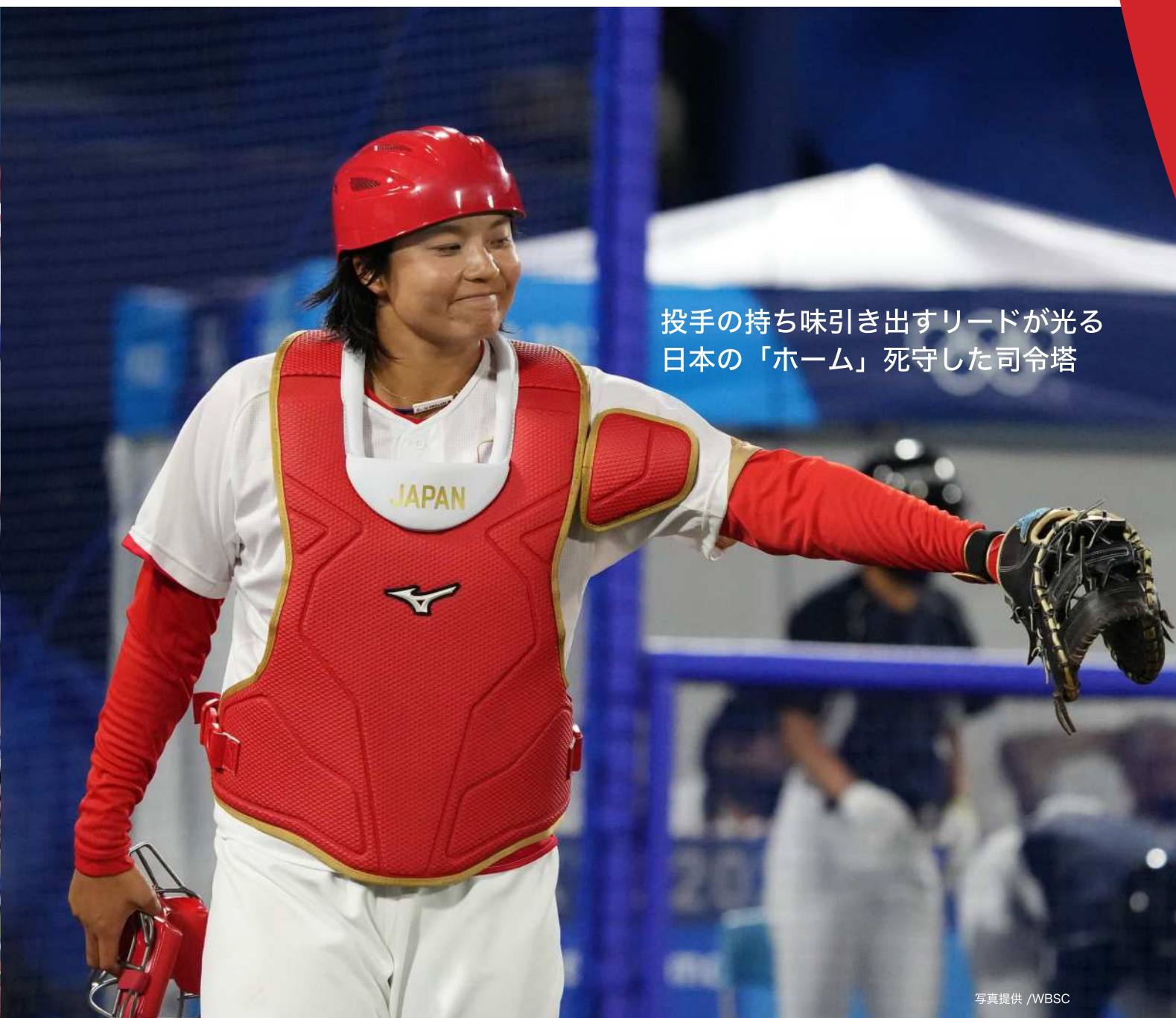
CATCHER / 捕手 我妻悠香 25 Haruka AGATSUMA

【今大会成績】

- 出場試合数：5
- 打率：.200 (10打数2安打)
- 打点：1

【投・打】右投右打

- 【所 属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
- 【生年月日】1994.12.18
- 【出身地】埼玉
- 【出身校】星野高（埼玉）
- 【身長】172cm



投手の持ち味引き出すリードが光る
日本の「ホーム」死守した司令塔

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'13Jr、'16世、'18世・ア

【主な国内大会の成績】高校／インターハイ優勝（'10）
日本リーグ優勝（'13、'15、'17、'19、'20、'21）
全日本総合選手権優勝（'16、'18、'21）

【日本リーグ個人賞受賞歴】ベストナイン1回

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ） 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

CATCHER / 捕手 清原奈侑 21 Nayu KIYOHARA

【今大会成績】

- 出場試合数：2
- 打率：.000（1打数0安打）

【投・打】右投右打

- 【所 属】日立 サンディーバ
- 【生年月日】1991.5.1
- 【出身地】大阪
- 【出身校】京都西山高（京都）→ 園田学園女子大
- 【身長】165cm

強気のリードで投手陣を牽引
発想力豊かな「第三の捕手」

【主な国内大会の成績】高校／インターハイ優勝（'08）
インカレ優勝（'11、'12）
【日本リーグ個人賞受賞歴】ベストナイン 1回

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

CATCHER / 捕手 峰 幸代 1 Yukiyo MINE

【今大会成績】

- 出場試合数：2
- 打率：.250（4打数1安打）

【投・打】右投右打

- 【所 属】トヨタ自動車 レッドテリアーズ
- 【生年月日】1988.1.26
- 【出身地】福岡
- 【出身校】木更津総合高（千葉）→ ルネサスエレクトロニクス高崎
- 【身長】165cm

日米のエースを知り尽くす貴重な存在
北京の「金」を知る大ベテラン

【国際大会出場歴】'07Jr、'08オ、'10世・ア、'12世、'14世・ア
【主な国内大会の成績】高校／全国高校選抜大会優勝（'04）、インターハイ優勝（'04）
日本リーグ優勝（'08、'09、'13、'18）
全日本総合選手権優勝（'06、'07、'08、'09、'11、'12、'17、'19）
【日本リーグ個人賞受賞歴】ベストナイン 3回、新人賞

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ） 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会 オ＝オリンピック

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

INFIELDER / 内野手 渥美万奈 12 Mana ATSUMI

【今大会成績】

- 出場試合数：6
- 打率：.300（10 打数 3 安打）
- 打点：2

【投・打】右投左打

- 【所 属】トヨタ自動車 レッドテリアーズ
- 【生年月日】1989.6.15
- 【出身地】静岡
- 【出身校】常葉大附属菊川高（静岡）
- 【身長】167cm

渥美たまらん！
金メダル呼び込む「神ゲッター」

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'16世、'18世・ア

【主な国内大会の成績】日本リーグ優勝（'10、'11、'12、'14、'16、'18）
全日本総合選手権優勝（'10、'13、'14、'17、'19）

【日本リーグ個人賞受賞歴】ベストナイン2回

※世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

INFIELDER / 内野手 市口侑果 4 Yuka ICHIGUCHI

【今大会成績】

- 出場試合数：5
- 打率：.154（13 打数 2 安打）

【投・打】右投左打

- 【所 属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
- 【生年月日】1992.7.3
- 【出身地】大阪
- 【出身校】木更津総合高（千葉）
- 【身長】163cm

内・外野こなすユーティリティー
チームに欠かせぬ「つなぎ役」

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'11Jr、'14世・ア、'16世、'18世・ア

【主な国内大会の成績】高校／全国高校選抜大会優勝（'10）
日本リーグ優勝（'13、'15、'17、'19、'20、'21）
全日本総合選手権優勝（'11、'12、'16、'18、'21）

【日本リーグ個人賞受賞歴】打点王1回、ベストナイン3回

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ） 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

INFIELDER / 内野手 川畑 瞳 10 Hitomi KAWABATA

【今大会成績】

- 出場試合数：6
- 打率：.250（8打数2安打）

【投・打】右投左打

- 【所 属】デンソー ブライトペガサス
- 【生年月日】1996.5.1
- 【出身地】鹿児島
- 【出身校】神村学園高等部（鹿児島）
- 【身長】164cm

笑顔の奥に秘めた「闘志」
攻・守・走、三拍子揃った
マルチプレイヤー

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'16世、'18世・ア
【主な国内大会の成績】高校／インターハイ優勝（'14）
【日本リーグ個人賞受賞歴】ベストナイン2回

※ 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

INFIELDER / 内野手 内藤実穂 14 Minori NAITO

【今大会成績】

- 出場試合数：6
- 打率：.200（15打数3安打）
- 本塁打：1 ● 打点：2

【投・打】右投右打

- 【所 属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
- 【生年月日】1994.4.26
- 【出身地】大阪
- 【出身校】佐賀女子短期大学付属佐賀女子高（佐賀）
- 【身長】163cm

チームに「勢い」与えた初戦本塁打
戦術理解に長けた
「麗華 JAPAN」の申し子

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'13Jr、'18世・ア
【主な国内大会の成績】日本リーグ優勝（'13、'15、'17、'19、'20、'21）
全日本総合選手権優勝（'16、'18、'21）
【日本リーグ個人賞受賞歴】ベストナイン2回

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ） 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

INFIELDER / 内野手 山本 優 5 Yu YAMAMOTO

- 【今大会成績】
 ● 出場試合数：6
 ● 打率：.333 (18 打数 6 安打)
 ● 本塁打：2 ● 打点：5
- 【投・打】右投右打
 【所 属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
 【生年月日】1988.8.20
 【出身地】北海道
 【出身校】当別高 (北海道)
 【身長】164cm



オリンピックの「夢舞台」で躍動！
世界を震撼させたスラッガー

写真提供 / WBSC

- 【国際大会出場歴】'07Jr、'14世・ア、'16世、'18世・ア
 【主な国内大会の成績】日本リーグ優勝 ('08、'09、'13、'15、'17、'19、'20、'21)
 全日本総合選手権優勝 ('07、'08、'09、'11、'16、'18、'21)
 【日本リーグ個人賞受賞歴】首位打者 1 回、本塁打王 1 回、打点王 1 回、ベストナイン 6 回、新人賞

※ Jr = 世界ジュニア選手権 (現・U 18 ワールドカップ) 世 = 世界選手権 (現・ワールドカップ) ア = アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

OUTFIELDER / 外野手 原田のどか 8 Nodoka HARADA

- 【今大会成績】
 ● 出場試合数：6
 ● 打率：.059 (17 打数 1 安打)
 ● 打点：1
- 【投・打】右投右打
 【所 属】太陽誘電 ソルフィュー
 【生年月日】1991.8.9
 【出身地】岡山
 【出身校】岡山南高 (岡山)
 【身長】163cm



強肩・強打の外野手
「笑顔」絶やさぬムードメーカー

写真提供 / WBSC

- 【国際大会出場歴】'18世・ア
 【日本リーグ個人賞受賞歴】本塁打王：1 回

※ 世 = 世界選手権 (現・ワールドカップ) ア = アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

OUTFIELDER / 外野手 森 さやか 9 Sayaka MORI

【今大会成績】

- 出場試合数：4
- 打率：.250（4 打数 1 安打）

【投・打】右投右打

- 【所 属】ビックカメラ高崎 BEE QUEEN
- 【生年月日】1988.9.29
- 【出身地】埼玉
- 【出身校】星野高（埼玉）→ 東京女子体育大
- 【身長】163cm



独特の「世界観」持つスラッガー
「一振り」に賭ける「代打の切り札」

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'07Jr・ユ、'09ワ、'14世

【主な国内大会の成績】大学ノインカレ優勝（'10）

日本リーグ優勝（'13、'15、'17、'19、'20、'21）

全日本総合選手権優勝（'11、'12、'16、'18、'21）

【日本リーグ個人賞受賞歴】首位打者 1 回、ベストナイン 3 回

※ Jr＝世界ジュニア選手権（現・U 18 ワールドカップ） 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ユ＝ユニバーシアード ワ＝ワールドゲームズ

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

OUTFIELDER / 外野手 山崎早紀 2 Saki YAMAZAKI

【今大会成績】

- 出場試合数：6
- 打率：.063（16 打数 1 安打）

【投・打】右投右打

- 【所 属】トヨタ自動車 レッドテリアーズ
- 【生年月日】1991.11.12
- 【出身地】静岡
- 【出身校】常葉大附属菊川高（静岡）
- 【身長】170cm



切れ味鋭い攻・守・走
勝負どころで頼れるクラッチヒッター

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'16世、'18世・ア

【主な国内大会の成績】日本リーグ優勝（'10、'11、'12、'14、'16、'18）

全日本総合選手権優勝（'10、'13、'14、'17、'19）

【日本リーグ個人賞受賞歴】MVP1 回、首位打者 1 回、打点王 2 回、ベストナイン 2 回

※ 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / PLAYERS

OUTFIELDER / 外野手

山田恵里 11 Eri YAMADA

【今大会成績】

- 出場試合数：6
- 打率：.357（14 打数 5 安打）
- 打点：1

【投・打】左投左打

【所 属】デンソー ブライトペガサス

【生年月日】1984.3.8

【出身地】神奈川県

【出身校】厚木商業高（神奈川県）→ 日立

【身長】165cm



13年の思いを込めて…
攻守に躍動！ソフトボール界のイチロー

写真提供 / WBSC

【国際大会出場歴】'04 オ、'06 世・ア、'08 オ、'10 世・ア、'12 世、'14 世・ア、'16 世、'18 世・ア

【主な国内大会の成績】高校／全国高校選抜大会優勝（'00、'01）、インターハイ優勝（'00、'01）

【日本リーグ個人賞受賞歴】首位打者 5 回、本塁打王 1 回、打点王 1 回、ベストナイン 14 回、新人賞

※ 世＝世界選手権（現・ワールドカップ） ア＝アジア競技大会 オ＝オリンピック

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / STAFF

総力戦でつかんだ金メダル

年間 150 日に及ぶ強化合宿と海外遠征を繰り返し

チームはまさに「家族」だった

強化 5 力年計画、Target Age Project、GEM Project すべてが金メダルに昇華・結実

異例の「無観客開催」…それでも私たちには皆さんの「声援」が確かに届いていた

誰もいないはずのスタンド。私たちには皆さんの「声」が聞こえた

開催が中止か、揺れ動いた心

だからこそ「金メダル」がこんなに嬉しい！

一人じゃなかった。みんながいたから金メダルに辿り着けた



チームスタッフ

チームリーダー	矢端信介	JOC / (公財) 日本ソフトボール協会 選手強化本部長
ヘッドコーチ	宇津木麗華	ビックカメラ高崎
アシスタントコーチ	山路典子	太陽誘電
アシスタントコーチ	ルーシー・カサレス	豊田自動織機
ドクター	服部幹彦	JOC 医科学強化スタッフ / 山手クリニック
トレーナー	鴻江寿治	鴻江スポーツアカデミー
トレーナー	志村昌彦	ビックカメラ高崎
マネージャー	柳川直子	ビックカメラ高崎

THE GOLD MEDALISTS

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
SOFTBALL / CONTRIBUTOR

ワールドランキング1位の「男子」も協力！
世界TOPレベルのピッチャーを相手に打ち込む！



最先端のIT機器・映像技術も練習に取り入れたVRで、
最大のライバル「アメリカ」投手陣の球種・球筋をマシンで再現。
暑熱対策を含む栄養とメンタルの両面を徹底管理&ハイパフォーマンスサポート。

Special Thanks to
NTTコミュニケーション基礎科学研究所、国立スポーツ科学センター(JISS)、ハイパフォーマンススポーツセンター



選手村外スタッフ

トレーナー	村上純一	デンソー
トレーナー	安部容子	有限会社 ティムコーポレーション
情報	大田 穂	順天堂大学
情報	黒川春華	ビックカメラ高崎
心理	遠藤拓哉	ハイパフォーマンススポーツセンター
協力員	寺原瑞希	旭化成
協力員	照井賢吾	高崎市役所
協力員	松田 光	平林金属
用具	塚原弘珠	ミズノ
事務局	藤井まり子	(公財)日本ソフトボール協会

まさに
「ALL JAPAN 体制」で
手にした金メダル

FOOTSTEPS
強化の軌跡 2008 - 2021



GOLD MEDAL in OLYMPIC GAMES BEIJING



日本中が歓喜に沸いた北京オリンピックでの金メダル獲得

2008年は北京オリンピック金メダル獲得に沸いた年であった。しかし、すでに2012年のオリンピック競技からの「除外」が決定していた。金メダル獲得直後の日本リーグでは、金メダリスト、特に「上野の413球」で流行語になり、時の人となった上野由岐子選手を一目見ようと、「徹夜組」が出る等、「金メダルフィーバー」「ソフトボールフィーバー」は最高潮に達したが、その「熱」がさめるのも、また早いものがあった。

金メダル獲得とともに始まった「オリンピック競技復帰」への戦い。これはある意味、オリンピックで金メダルを手にするよりも難しい戦いであり、この後、長く険しく道のりを歩んでいかなければならなかった。



金メダル獲得直後、選手達の勇姿を一目見ようとスタンドを埋める観客



「ワールドゲームズ」には大学日本代表を編成し参加。「東京2020オリンピック」金メダリスト・森さやか選手が出演。森さやか選手は、世界女子ジュニア選手権（U19世界女子選手権）を皮切りに、ユニバーシアード、このワールドゲームズ等、他の選手が経験していない大会に出場し活躍した。

「ISF イーストン・ファンデーション・ユースワールドカップ」(2009年8月9日～16日/チェコ・プラハ)で日本が優勝。「東京2020オリンピック」で「チームリーダー」を務めた矢端信介選手強化本部長が率いたチームだった。

Back Softball 2016

もらった感動を、みんなで返そう。

世界一のチームには、世界一のサポーターが必要だ。

悲願の金メダル獲得に、日本中が沸いた2008年。しかし、残念ながらソフトボールは、オリンピック正式競技からはずれてしまいます。このままでは、あの金メダルが「スタート」ではなく「ゴール」になってしまう。力をつけてきた日本選手の實力を、思う存分発揮する場がなくなってしまう。色々な想いが錯綜する中、あるニュースが飛び込んできました。「2016年のオリンピックから、ソフトボールが復活する可能性がある」と。その運命が決まるのが、実は今年なのです。そのためには、ソフトボール界の力だけでは足りません。日本中の力が必要になってきます。あの感動を、もう一度味わうために、みんなの力で、ソフトボールをオリンピックに戻しませんか？ Back Softball キャンペーンはいよいよ始動開始です。ソフトボールを、オリンピックに戻すために、あなたも1球投げてくださいませんか？ softball.or.jp/backsoft/



2009年2月27日、日本ソフトボール協会は、2016年のオリンピック競技復帰へ向け、「Back Softball 2016 もらった感動を、みんなで返そう」のオフィシャルスローガンを掲げ、またその活動をさらに推し進めていくために、オフィシャルロゴマークも作成。「Back Softball 2016 オフィシャルウェブサイト」も立ち上げ、オリンピック競技復帰へ向けた活動を精力的に行った。

2012年のロンドンオリンピックからソフトボール競技が除外されることはすでに決定しており、このままでは北京での金メダル獲得が「スタート」ではなく、「ゴール」となってしまう……との危機感からソフトボールのオリンピック競技復帰をめざし、「Back Softball」活動を積極的に推し進め、2009年10月のIOC（国際オリンピック委員会）総会で決定する2016年オリンピックに追加2競技（ソフトボール、野球、空手、スカッシュ、ゴルフ、ラグビー、ローラースポーツの7競技の中から2競技を選ぶ）へ向けて、協会一丸となり、日本全国はもとより、世界中のソフトボールを愛する仲間とともに死力を尽くしたが……。10月のIOC総会の「前段階」として実施された8月13日、ドイツ・ベルリンでのIOC理事会で前述の7競技から追加2競技の絞り込みが行われ、7人制ラグビーとゴルフが選出され、この段階でソフトボールの2016年オリンピック競技「復帰」の夢は潰れてしまった。

皮肉にも、同時期、IOC委員の多いヨーロッパでソフトボールのオリンピック競技復帰をアピールしようと企画・開催されたU16（16歳以下）の世界大会「ISF イーストン・ファンデーション・ユースワールドカップ」（8月9日～16日/チェコ・プラハ）で日本が優勝。そのチームを率いたのが、現在、日本ソフトボール協会の「強化の責任者」（選手強化本部長）として、今回の「東京2020オリンピック」で「チームリーダー」を務め、金メダル獲得に尽力した矢端信介氏であったのも、何かの「因縁」なのだろうか。また、「ワールドゲームズ」では大学生の日本代表チームを編成し、優勝。そのメンバーの中には「東京2020オリンピック」金メダリスト・森さやか選手の姿も見られる。

第12回 世界女子選手権大会 準優勝



2008

2009

2010

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021



東京2020オリンピックで「金メダリスト」となった上野由岐子、山田恵里選手、峰幸代選手が
出場している。

第16回 アジア競技大会 (広州アジア大会) 金メダル



2010年は「第12回世界女子選手権大会」がベネズエラ・カラカスで開催され、準優勝。2008年の北京オリンピックで金メダルを獲得し、「世界の頂点」に立った日本だが、1986年の「第8回世界女子選手権大会」から世界選手権「連覇」を続けてきたアメリカの「牙城」を崩すことはできず、「7連覇」を許してしまった。日本は「エース」上野由岐子が大会に不参加。北京オリンピックで「悲願」の金メダルを獲得し、しかも「次のオリンピック」という「目標」が、オリンピック競技「除外」という現実によって奪われてしまったこともあり、「やり切った」「燃え尽きた」と感じる「燃え尽き症候群」の選手は多く、「現役引退」を選択する選手や「代表辞退」を選択する選手が出てしまった。それでもキャサリン・オスターマン、モニカ・アボットの「Wエース」を擁するアメリカには屈したものの、見事「決勝進出」を果たし、「準優勝」という結果を勝ち獲ったのは「日本の底力」の証明といえよう。

同年はアジア競技大会の開催年であり、オリンピック競技から「除外」されたソフトボール競技にとって、対外的に「存在感」を示すには、ここで「金メダル」を獲得するしかなかった。「エース」上野由岐子を「代表復帰」させ、「必勝」を期した「第16回アジア競技大会」(広州アジア大会)では、予選リーグでチャイニーズ・タイペイに敗れるという波乱はあったものの、2002年釜山、2006年ドーハに続き、3大会連続の金メダル獲得を果たした。

このアジア大会での3大会連続金メダルを「置き土産」に、北京オリンピックで日本を「金メダル」に導いた齋藤春香ヘッドコーチが勇退。「次なる時代」のはじまりを告げる年でもあった。

齋藤春香ヘッドコーチ



がんばろう！日本



2011年9月21日～27日、台湾・南投において「第10回アジア女子選手権大会」(兼第13回世界女子選手権大会アジア地区予選)が開催され、日本は無敗のまま「完全優勝」。翌年の世界選手権への出場権を獲得。東日本大震災で多大な支援を行ってくれた台湾に感謝の横断幕を用意し、謝意を表した。



2011年4月、東日本大震災から立ち上がろうと復興支援大会を開催し、募金活動等も行った。

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2011年3月11日、午後2時46分「東日本大震災」に見舞われ、東北地方を中心に多くの方々が被災され、今もその「爪痕」はそこかしこに見られ、復興への道のりはまだまだ「道半ば」でしかない。

そんな中、日本ソフトボール協会も3月に予定されていた全国高校選抜男子・女子大会、都道府県対抗全日本中学生男子・女子大会、春季全日本小学生男子・女子大会の中止を決定。「スポーツどころではない」「ソフトボールどころじゃない」といった雰囲気もあったが、4月以降は日本リーグをはじめ各カテゴリーの全日本大会を「東日本大震災復興支援大会」と銘打ち、実施。「スポーツの力」で少しでも被災地に元気と勇気を届けたい……と、敢えて大会を開催し、ソフトボールに全力で取り組んだ。

2011年2月、女子日本代表のヘッドコーチに宇津木麗華氏が就任。翌年の「第13回世界女子選手権大会」へ向け、チームの指揮を執り、アジア地区予選を突破。本大会出場権を獲得した。

また、「第9回世界女子ジュニア選手権大会」(U19世界女子選手権)では、予選リーグ・決勝トーナメントを「無敗」で勝ち進み、セミファイナルでは「宿敵」アメリカにコールド勝ちを収めたものの、決勝では「まさか……」の満塁ホームラン一発に沈み、1-4で敗れ、2大会連続で優勝を逃した。



2011年2月、女子日本代表ヘッドコーチに宇津木麗華氏が就任。

第9回 世界女子ジュニア選手権大会 準優勝



東京2020オリンピックで「金メダリスト」となった市口侑果選手が出場。

2008
2009
2010
2011

2012年3月15日～25日、「第1次海外強化合宿」を実施。「第1次海外強化合宿」は、オーストラリア・キャンベラで行われ、オーストラリア代表チームと7試合の「対抗戦」を行う「2012年国際ソフトボールチャレンジ」に出場する等、「世界選手権優勝」、「世界一」の座をめざし、世界選手権で常に上位を争うライバル・オーストラリアを相手に意欲的な強化を行った。

2012

2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021

2012年は「第13回世界女子選手権大会」がカナダ・ホワイトホースで開催され、優勝。1970年に日本・大阪で開催された「第2回世界女子選手権大会」以来、実に42年ぶりとなる「王座奪還」「世界選手権優勝」を果たした。

大会は「ロンドンオリンピック」の直前に開催され、ソフトボールの「存在意義」を示すためには「優勝しかない」と「背水の陣」で臨んだ大会でもあった。

現地・ホワイトホースへ大会取材に訪れた記者は共同通信の記者たった一人……。その記者が開口一番「何でこんなところで世界大会やってるんですか??」と吐き捨てるように言った一言は今も忘れることはできない。図らずもオリンピック競技から「除外」された悲哀を味わうことになってしまったが、「オリンピックチャンピオン」の意地を見せ、優勝を飾ってくれたことが唯一の救いだった。



世界選手権で着用する新ユニフォームも併せて発表された。



2012年4月、「第13回世界女子選手権大会」に出場する代表選手17名を発表。

2008
2009
2010
2011

金メダル

第13回 世界女子選手権大会 42年ぶりの二度目の優勝

2012

2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021

東京2020オリンピックでチームを「金メダル」に導いた宇津木麗華ヘッドコーチ、ルーシー・カサレスコーチ、「金メダリスト」となった上野由岐子選手、山田恵里選手、峰幸代選手、藤田優選手が「世界制覇」に貢献！

WBSC 世界野球ソフトボール連盟設立

2013年4月14日、IBAF（国際野球連盟）とISF（国際ソフトボール連盟）は、2020年夏季オリンピックでの実施競技復帰をめざし、両競技団体を統合する「世界野球ソフトボール連盟（WBSC）」の設立を発表。東京・グランドプリンスホテル新高輪で共同記者会見を開き、新組織・WBSCで「共同会長」となるIBAFのリカルド・フラッカリ会長とISFのドン・ポーター会長が、WBSCの規約・憲章に調印し、WBSCのロゴ・スローガン（テーマ）のお披露目を行った。

これを受け、（公財）日本ソフトボール協会もオリンピック競技復帰をめざし、懸命の復帰活動を展開。選手強化と並行し、あるいは「それ以上」にオリンピック競技復帰へ向け、「一丸」となり、努力が続けたが……。

9月8日、アルゼンチン・ブエノスアイレスで行われたIOC（国際オリンピック委員会）総会で、2020年オリンピック競技大会実施競技不採用の決定があり、オリンピック競技復帰を果たすことはできなかった。



2013年4月14日、WBSC（世界野球ソフトボール連盟）を設立。



懸命の五輪復帰活動を展開！



USA ワールドカップ、カナダカップ両国際大会で優勝！強化を進めると同時にオリンピック競技復帰をアピール



しかし、オリンピック競技復帰は叶わず…野球・ソフトボールの共同会見

第10回 世界女子ジュニア選手権大会



金メダル

3大会ぶり5回目の世界一

アメリカの3連覇許さず、世界の頂点へ！
東京 2020 オリンピック、金メダリスト
我妻悠香選手、内藤美穂選手が出場。





2014年6月23日、「第14回世界女子選手権大会」「第17回アジア競技大会」(韓国・仁川)に出場する代表選手を発表。「侍ジャパン」とコラボレーションした新ユニフォームも発表された。

金メダル

第14回 世界女子選手権大会 「史上初」の連覇達成！



2014年8月15日～24日、オランダ・ハーレム で開催された「第14回世界女子選手権大会」では予選リーグ・決勝トーナメントを通じて「全勝」で優勝！ 日本として「初」の世界選手権「連覇」を達成！！



「東京2020オリンピック」で「チームを「金メダル」に導いた宇津木麗華ヘッドコーチ、ルーシー・カサレスコーチ、「金メダリスト」となった上野由岐子選手、藤田優選手、峰幸代選手、市口侑果選手、山本優選手、森さやか選手、山田恵里選手が出場。日本「初」の「世界選手権連覇」、アジア大会での「4大会連続金メダル獲得」の偉業を達成した。

五輪競技復帰をアピールするために

2014年6月23日、(公財)日本ソフトボール協会は、東京・岸記念体育会館で記者会見を行い、「第14回世界女子選手権大会」出場選手、「第17回アジア競技大会」出場選手を発表。併せて野球の「侍ジャパン」とコラボレーションした新ユニフォームの発表を行った。

世界選手権「連覇」とアジア競技大会「4大会連続金メダル獲得」に挑む女子日本代表。「オリンピック競技復帰」をアピールするためにも、まずは「勝つ」ことで存在感を示し、「侍ジャパン」とのコラボレーションの話題やソフトボールという競技のPRへとつなげていかなければならない。

「勝つ」ことだけでは道は拓かれない。しかし……「勝つ」ことができれば、誰も見向きもしてはくれない。「勝つ」ことによってソフトボールがニュースとなる。ニュースが報じられてはじめて、それに付随する話題も取り上げられることになる。大会に参加し、「勝つ」ことだけでなく、オリンピック競技復帰へのアピール、ソフトボールという競技の魅力発信、数々の「使命」を託されたチームは、見事、「世界選手権連覇」とアジア競技大会「4大会連続金メダル」という大きな大きなミッションを両大会「全勝」という圧倒的な強さで果たして見せた。

金メダル

第17回 アジア競技大会(仁川アジア大会) 金メダル



2015年4月、(公財)日本ソフトボール協会は、「東京2020オリンピック」での野球・ソフトボールの「復活」が現実味を帯びる中、従来の強化部門とは別に「オリンピック」に特化したシステムの構築を行い、その新たな選手強化プラン・システムによる女子日本代表選手(TOP、TAP-A、TAP-Bを発表(TAP = Target Age Project: 東京2020オリンピックで中心選手となり得る選手群の発掘・育成・強化を行うプロジェクトの略称))。「東京2020オリンピック」において、「野球・ソフトボール」が復活するのでは……という気運が高まる中、正式決定する来年(2016年)を待っている「選手強化が間に合わない」と判断。「東京2020オリンピックでは野球・ソフトボールの『復活』が必ず実現する」ことを大前提とし、矢端信介選手強化副本部長(当時)を中心に、オリンピックでの金メダル獲得をめざす、選手強化のプラン・システムの作成、その「新システム」下での選手強化、いわゆる「強化五カ年計画」の「元年」であり、「東京2020オリンピック」金メダル獲得計画が本格的に始動した年でもあった。



2015年4月9日～11日、静岡県伊豆市・天城ドームを会場に「TAP-A、TAP-B代表選手選考会」を実施。選考会参加選手については、第1回目のCOS(Conference Of the Selectorの略。選考委員会議)で推薦リストに上がった145名程の有望選手を、COS委員が活発な議論を重ねながら、最終的に48名まで絞り込み、候補選手として選出。SCOTT(Special Committee Twenty-Twoの略。五輪特別委員会)で承認された後、最終選考(実技選考)として、選手強化本部女子強化委員の面々が選考委員を務め、選考会が行われた。

2015

準優勝

第14回 世界女子ジュニア選手権大会 準優勝



2015年8月9日～15日、アメリカ・オクラホマシティで開催された「第11回世界女子ジュニア選手権大会」では、「連覇」を狙ったが……アメリカに決勝で敗れ、準優勝。



第15回 世界女子選手権大会 準優勝



「東京2020オリンピック」で「金メダリスト」となった藤田優選手、我妻悠香選手、瀧美万奈選手、市口侑果選手、川畑瞳選手、山本優選手、山崎早紀選手、山田恵里選手が出場。惜しくも大会3連覇を逃がした。



2016年8月4日、「東京2020オリンピック」追加種目入りが正式決定。

2016年7月15日～24日、カナダ・サレーで開催された「第15回世界女子選手権大会」には、福田五志ヘッドコーチがチームを率い、「世界選手権3連覇」をかけ、大会に臨んだ。これは複数の候補者の中から「東京2020オリンピック」で指揮を執るヘッドコーチを選定するためのもので、前年11月の理事会で承認され、決定したもの。2012年、2014年と「世界選手権連覇」を果たしている宇津木麗華氏との「比較」、オリンピック金メダル獲得をめざすチームを「誰に託すのか」というテスト的な意味合いもあった。

しかし……「エース」上野由岐子が試合中のアクシデントで左腓腹筋内側頭損傷。「手術」を決断する事態となり、大会を欠場。「エース不在」の大会となり、決勝でアメリカに敗れ、日本にとっては史上初となる「3連覇」を逃がす結果となった。

8月4日、午前4時46分、IOC(国際オリンピック委員会)総会が行われているブラジル・リオデジャネイロから、その「一報」が届いたとき、記者会見場のインターネットでその状況を伝える画面を注視していた野球・ソフトボールの関係者から、思わず「歓声」が上がった。すでにIOC理事会で承認されていた東京2020オリンピックへの5種目18競技の追加が総会で諮られ、正式に承認。野球・ソフトボールの正式種目採用、2008年北京オリンピック以来となる「復活」がついに実現した。

11月21日、東京・岸記念体育会館で、女子TOP日本代表のヘッドコーチに就任が決定した宇津木麗華氏が記者会見を行い、「東京2020オリンピック」へ向けた強化体制が本格的にスタートを切った。



2016年11月21日、宇津木麗華氏がヘッドコーチに就任

2016



2017年6月7日、東京・岸記念体育会館で「SOFT JAPAN 始動宣言」記者発表会が催された。

2017年6月7日、東京・岸記念体育会館で「SOFT JAPAN 始動宣言」記者発表会が催された。北京オリンピックで金メダルを獲得し、世界一になったものの、その後、ロンドン、リオと2大会続けてオリンピック競技から外れたこともあり、ソフトボール競技の活性化ということについては影を落としていた部分があった。東京オリンピックでの「復活」を機に、皆の心を一つにし、拠り所になるものを作ろうと、「SOFT JAPAN」シンボルロゴの作成に至った。当初は、〇〇 JAPAN といったチームの愛称の選定が模索されたが、ソフトボールは北京オリンピックの金メダルを皮切りに、世界選手権でも二度の優勝を経験する等、「ソフト＝世界一」というイメージが定着していることから、シンプルに「SOFT JAPAN」というネーミングとし、それがシンボルロゴともなった。

～ Gold again and Over the Gold ～金メダルのその先へ～「SOFT JAPAN」の名のもとに、「新たな挑戦」が始まった。



第12回 世界女子ジュニア選手権大会 準優勝



2017年7月24日～30日、アメリカ・フロリダ州クリアウォーターで開催された「第12回世界女子ジュニア選手権大会」に出場した女子 GEM 3 (U 19) 日本代表は、「宿敵」アメリカの「連覇」を止めることができず、準優勝。これまで「優勝5回」で並んでいた大会通算の優勝回数でも、今回の優勝でアメリカが「優勝6回」となり、追い抜かれる形となった。



2018年4月16日、「第16回世界女子選手権大会」に出場する「女子 TOP 日本代表選手」17名が正式に発表され、併せて「“毬” (mari) コレクション」と題し、「SOFT JAPAN」新ユニフォーム、並びに「オフィシャルウェア」が、「東京モード学園」とコラボレーションするかたちで同時発表された。



第16回 世界女子選手権大会 準優勝



第18回 アジア競技大会 (ジャカルタアジア大会) 金メダル

8月2日～12日、千葉県下四市（千葉市／ZOZO マリンスタジアム、成田市／ナスパ・スタジアム、習志野市／第一カッター球場（秋津野球場）、市原市／ゼットエーボールパーク）を会場に開催された「第16回 WBSC 世界女子選手権大会 2018 千葉」に出場。2大会ぶり4度目となる「世界一」の座をめざし、熱戦を繰り広げたが、惜しくも「宿敵」アメリカに敗れ、「王座奪還」はならなかった。一方、8月19日～24日、インドネシア・ジャカルタで開催された「第18回アジア競技大会（インドネシア・ジャカルタ）」では、圧倒的な強さで5大会連続となる金メダル獲得を果たし、まさに「アジアに敵なし」を印象づけはしたものの、「東京2020オリンピック」へ向け、一抹の不安を残す結果となってしまった。



2019年7月24日、福島県福島市でのオリンピック「1年前」イベントに参加。

2019年は6月9日、(公財)日本ソフトボール協会は、東京都港区「グランドプリンスホテル高輪」で「日本ソフトボール協会 創立70周年記念祝賀会」を執り行い、各都道府県協会の関係者、関連団体やスポンサー・チーム関係者等、300人近くが駆けつけ、協会創立70周年を祝った。

7月24日には、福島県福島市「ホテル福島グリーンパレス」を会場に、「東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議」&「ふくしま大交流ミーティング〜Tokyo 2020 1 Year to Go!〜」が実施された。ここに福島で「第3次国内強化合宿」を実施中の女子TOP日本代表も参加。「大会1年前」、全競技に先駆け「開幕」を迎える福島の地で「金メダル獲得」への「決意」を新たに示した。

8月10日〜17日、アメリカ・カリフォルニア州アーバインで「第13回女子U19ワールドカップ」が開催され、日本は決勝でアメリカに敗れ、準優勝。前年の「第16回世界女子選手権大会」の決勝でアメリカから延長10回表に2点を勝ち越し。誰もが「王座奪還」を確信したその裏、3点を奪われ、逆転サヨナラ負けを喫した「悪夢」が再現されてしまった。0-0で延長タイブレークにもつれ込んだ8回表、「3点」を先制しながら「まさか……」の逆転サヨナラ負け。「宿敵」アメリカを追い詰めながら、「勝ち切れない」もどかしい試合、大会が続いた。



準優勝

第13回 女子U19ワールドカップ 準優勝



8月10日〜17日、アメリカ・カリフォルニア州アーバインで「第13回女子U19ワールドカップ」が開催され、日本は決勝でアメリカに敗れ、準優勝。「東京2020オリンピック」で「金メダリスト」となった後藤希友選手が出場。



金メダル

2020 Australia Pacific Cup 全勝優勝



2020年1月30日〜2月2日、「2020 Australia Pacific Cup」で「全勝優勝」。

「オリンピックイヤー」となるはずだった2020年は、1月30日〜2月2日、オーストラリア・ブラックタウンでの「第2次海外強化合宿」で幕を開け、合宿中に「2020 Australia Pacific Cup」に出場。予選ラウンド・ファイナルラウンドともに「全勝」で優勝を飾り、オリンピックへ向け、順調なスタートを切ったかに見えた。

しかし……翌2月のグアムでの「第3次海外強化合宿」を最後に、新型コロナウイルス感染症の影響で強化事業を中止せざるを得ない状況へと追い込まれ、3月24日には、「異例」のオリンピック「1年延期」が決定してしまった。

誰も予想できなかった事態……それでも、本来なら「東京2020オリンピック」ソフトボール競技が「開幕」を迎えるはずであった7月22日、女子TOP日本代表の「新ユニフォーム」を発表。新型コロナウイルスの影響もあり、各種メディア、報道関係の来場も制限し、「リモート記者会見」を実施。指定されたテレビ局、新聞社、通信社から記者発表の映像素材、スチール写真素材を分岐・共有する形で進められた。

新型コロナウイルスの影響で「1年延期」を余儀なくされた「東京2020オリンピック」。本来ならすべての競技に先駆け、「開幕」を迎えていたはずが、誰も想像すらできなかった「想定外」の事態となり、すべてが「仕切り直し」となってしまった。

宇津木麗華ヘッドコーチは、「3年かけて進めてきた準備がすべて白紙に戻ってしまった。私の中では決まっていた15名のオリンピックメンバーもこの1年の延期でまた変わってくる可能性があり、選手が変わり、戦力が変われば、当然その戦術も変わってくる。3年かけて準備したからといって、1年後、同じように戦うことはできないし、同じ戦い方が通用するほど、甘い世界ではない。もう一度、すべてやり直しです」との言葉には、オリンピックという大舞台の指揮を任されたヘッドコーチにしかわからない『重圧』『プレッシャー』も感じられた。



2020年7月22日、「東京2020オリンピック」で着用する新ユニフォームを発表。

TOKYO 2020 OLYMPIC GAMES
ソフトボール競技
日本代表選手15名を選出



2021年3月23日、(公財)日本ソフトボール協会は、新型コロナウイルスの影響により、1年延期を余儀なくされた「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)ソフトボール競技」日本代表選手15名を選出。オンラインによるリモート発表記者会見を行い、オリンピック「本番」へ向け、「臨戦態勢」を整えた。



メキシコ代表チームとのテストマッチ
コロナ禍でも「できること」「やれること」を見出し、強化合宿を繰り返し、金メダル獲得へ「準備」を積み重ねた。



2021年6月13日、「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)ソフトボール競技」で金メダル獲得をめざす女子TOP日本代表の壮行会が催された。

5月17日～31日、群馬県高崎市で「第1次国内強化合宿」を実施。6月7日から「第1次国内強化合宿」と同じく群馬県高崎市で「第2次国内強化合宿」を行い、そこでは日本リーグ所属チームの協力を得て選抜されたチームと「強化試合」も行った。さらにはメキシコ代表チームと3試合のテストマッチを行った後、7月14日に「第2次国内強化合宿」を打ち上げ、翌15日にオリンピック選手村入り。19日には最初の試合会場となる福島県福島市に移動。21日(水)、すべての競技に先駆け、オリンピック「開幕」を迎えた。

記念誌発刊に寄せて～ 金メダルの、その先へ。 GOLD AGAIN, AND OVER THE GOLD.

良き相手、良き仲間がいて
(公財)日本ソフトボール協会 会長 三宅 豊

「金メダル」の喜びとともに「次なる時代へ」
(公財)日本ソフトボール協会 専務理事 岡本友章

東京2020オリンピックへ向けた強化の総括と
伝えるべき「オリンピックレガシー」
(公財)日本ソフトボール協会 選手強化本部長 矢端信介

金メダルへの道のり～感謝～
東京2020オリンピック 日本代表ヘッドコーチ 宇津木麗華





良き相手 良き仲間がいて

(公財) 日本ソフトボール協会 会長 三宅 豊

東京 2020 オリンピック「金メダル」。そして、記念誌の発行おめでとうございます。

北京オリンピックでの金メダルから 13 年。この時すでに「競技の見直し」ということでソフトボール競技のオリンピック競技からの「除外」は決まっていた。それを決定する I O C (国際オリンピック委員会) での投票の結果は、当時の I S F (国際ソフトボール連盟、後にオリンピック競技復帰をめざし野球と組織統合し、WB S C : 世界野球ソフトボール連盟を設立) の独自の調査では、賛成と反対が「同数」であったとのこと。これらを踏まえ、翌年、「再投票」を申し入れましたが……一度決定したことを軽々に覆すべきではない、と主張する当時の会長派(ジャック・ロゲ会長を中心とする勢力、オリンピック競技の縮小・種目削減を「公約」として会長に就任していた)の勢いが勝り、再投票に持ち込むことはできませんでした。

2009 年にリオオリンピックに「2 種目追加」が提案され、ソフトボールも「復活」をめざし、立候補しましたが落選。7 人制ラグビーとゴルフが採用されました。

時を経て 2013 年に東京でのオリンピック開催が決定。2014 年の I O C 臨時総会で、トーマス・バッハ会長より東京オリンピックでの 2 競技の追加が認められ、今度は、野球とソフトボールは 1 競技として競技入りをめざし、WB S C (IBAF : 国際野球連盟と ISF : 国際ソフトボール連盟を WBSC「世界野球ソフトボール連盟」として統一)。そして、日本は野球・ソフトボールと空手を提案。I O C から若者向けスポーツ、新たなニーズの取り込みを狙い、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンが加えられ 5 競技が候補に提案され、それを決定する 2016 年の総会では、1 競技ずつ選出するための投票を行う形ではなく、5 競技すべてを「セット」とし、採用の可否が採決され、全競技の採用を決定。東京 2020 オリンピックでのソフトボールのオリンピック競技「復帰」が決定しました。

こういった経緯を経て、オリンピック競技に「復帰」したソフトボール。本協会では「正式に追加競技が決定してからでは遅い」と、オリンピック競技復帰が正式決定する前の 2015 年に矢端信介選手強化副部長を中心に、選手強化本部会が「Road to Tokyo」という、いわゆる「強化 5 カ年計画」を立案し、オリンピックへ向けた強化の取り組みをスタートさせていました。

翌 2016 年、晴れて正式決定の日を迎え、矢端チームリーダーのもと、スタッフ組織を編成、年間 150 日を超える強化合宿、海外遠征を実施。オリンピックへ向けた本格的な選手強化が始まりました。しかし……新型コロナウィルスという「思わぬ敵」の出現により、東京 2020 オリンピックは 1 年延期、強化計画を大幅に見直すことを余儀なくされたのです。

そういった数々の「試練」を経て、練習だけでなく私生活も含め厳しい道のりを歩み、「金メダル」を手にした選手の皆さん本当におめでとうございます。心より敬意を表します。

そして、スタッフの皆さん。コロナ禍の中でも目標と情熱を失わず、錯綜した情報、時には「敵意」とさえ思えるオリンピック開催を反対する声に押し流されることなく、チームを支え、選手の指導にあたってくださいました皆さんなくして金メダルはなかったと思いますし、これほどの素晴らしいチームを創り上げてくださったことを誇りに思います。

さらに合宿で協力していただいた男子バッテリー並びに所属チームの皆さん。オリンピック本番でも帯同し、バッティングピッチャーとして選手たちの調整、練習相手を務めてくださいました。本当にありがとうございました。現在、残念ながら男子はオリンピック種目に入っておりませんが、まさに男女で力を合わせて勝ち取った金メダルだと思っています。そして……いつの日か男女揃ってオリンピックの舞台でソフトボールが行われることを心から願い、そのために今後も力を尽くしてまいりたいと思っています。

さて、ソフトボール競技は東京オリンピックの「最初」の競技として、全競技に先駆け、福島で開幕しました。「復興オリンピック」の名のもと、ソフトボール競技も 13 年ぶりの「復帰オリンピック」を戦い、「無観客」ではありましたが、ソフトボールを支え、応援してくださった皆さんから多くの力をいただき、開幕戦オーストラリアに快勝、メキシコ戦は延長戦の末、劇的なサヨナラ勝ちを収め、福島の地を後にし、会場を横浜スタジアムに移しても熱戦を繰り広げ、決勝戦へと駒を進めました。

決勝戦の対戦相手はアメリカ。13 年前北京オリンピック決勝戦の再現、リベンジに燃えるアメリカと 2 連覇を狙う日本との戦いとなりました。決勝戦は予想通り手に汗握る素晴らしい試合内容となり、アメリカの最後の打者がキャッチャーフライを打ち上げ、我妻悠香選手のミットにウイングボールが収まった時、グラウンドに聞こえるはずのない「大歓声」が聞こえた気がしました。そして……感動に身体が震えが止まりませんでした。

試合後、涙で抱き合う選手たち、そして、アメリカの選手、スタッフと健闘をたたえ合う日本のスタッフと選手の姿。そう、この感動は日本の選手たちの活躍だけで得られたものではなく、アメリカの選手たちの好プレー、金メダルへの執念、ファイトがあったからこそのものであり、だからこそこれほどまでに「美しい光景」を目にすることができたのです。

「良い勝負」は「良き相手」がいなくてはできません。そして「良い試合」は「良き仲間」がいなくてはできないのです。両チーム、金メダルをめざして全力で戦い、結果として「勝者」と「敗者」が生まれはしましたが、互いに全力を尽くし、金メダルをめざしてきたからこそ、わかり合い、通じ合う「心」があり、それがこの上もなく素晴らしくも美しい光景を描き出してくれたと感じています。

このオリンピックにおいては、選手みんなが良き働きをしました。また、それを活かした宇津木麗華ヘッドコーチの采配は見事の一言でした。「最高の監督」であったと思います。

そして、応援いただきました全国の皆さま、ご支援いただきました各支部協会はじめ関係者の方々本当にありがとうございました。深く深く感謝申し上げます。ソフトボール競技は、次のパリオリンピックでは再び「除外」されてしまいます。だからこそ、この「金メダル」を「ゴール」ではなく、「スタート」にしなければならないのです。これまでもそうであったように、これからも何度でも立ち上がり、そこから力強く歩んで行きます。選手たちが東京 2020 オリンピックという舞台で見せてくれたように……諦めなければ道は拓き、夢は叶う。そう強く強く信じて……。



「金メダル」の喜びとともに 「次なる時代へ」



(公財) 日本ソフトボール協会 専務理事 岡本友章

2013 年 9 月 8 日、「東京 2020 オリンピック」の開催が決まり、2012 年のロンドン大会から除外された野球・ソフトボールの正式種目復帰に「希望」が灯りました。そして自国開催で、北京大会に続く「連覇」「2 大会連続の金メダル獲得」の期待に胸が震えたことでした。

まずもって、正式種目復帰に向けて多くの関係の皆さまにご尽力をいただきましたことに、深甚より感謝申し上げます。

「1 年の延期」「無観客開催」とまさに過去に例のない「異例づくめ」の開催となった「東京 2020 オリンピック」において、ソフトボール競技は、すべての競技に先駆けて「開幕」を迎えました。日本チームは「連戦連勝」、その戦いに日本中が沸きかえり、見事にオリンピック「連覇」、実に「13 年越し」となる 2 大会連続での「金メダル獲得」を果たしました。

表彰式で金メダルを受け取った選手たちが、誇らしく輝いた顔でメダルを掛け合った姿は、大きな感動とともに一つの大きなミッションを完遂した瞬間でもありましたが、その瞬間に「次なる時代へ」ソフトボールの未来、将来をつなげていく、さらにこの競技を活性化させ、発展させていくという「重い責務」を背負った瞬間でもありました。

本協会役員一同、ソフトボール界の「さらなる発展のため」に引き続いて努力してまいりますので、関係各位の皆さまにもより一層のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます次第です。

ご承知のとおり、次回開催される 2024 年パリ大会では、残念ながらまたもソフトボール競技はオリンピック競技から「除外」されてしまいます。しかしながら、2028 年ロサンゼルス大会での「再度の復帰」を心から願っておりますし、そのために力を尽くしていきたいと思いますが、今大会での日本やアメリカの活躍は、復帰に向けて大きな弾みとなったと考えています。特に、またしても決勝の舞台で日本に敗れ、金メダルを逃したアメリカでは、勝負を分けた決勝戦 6 回裏の「神ゲッツー」が大きな話題を呼び、各種メディアや SNS 上で取り上げられ、「2028 年ロサンゼルスでリベンジを！」の気運が高まっているとも聞きます。

東京 2020 大会を振り返ってみますと、新型コロナウイルスが世界的に拡大する中で、感染予防対策の徹底などに万全を期した医療チームをはじめ、ボランティアや大会スタッフなどの的確、機敏な対応により、スムーズな運営が行われました。その「すべて」に感謝の思いしかありません。その中で、全競技の「トップバッター」としてスタートした女子ソフトボールは、宇津木麗華ヘッドコーチの卓越した指導力・統率力のもと、北京大会に続いて宿敵アメリカを倒し、連覇を達成しました。

この大会の「主役」はやはり上野由岐子投手でしたが、各国も「打倒・日本」に燃え、立ち向かってきたこともあり、「鉄人」「世界のエース」といわれる上野投手といえども決して簡単な戦いではありませんでした。厳しい局面、ピンチを迎えたこともありましたが、そこに 20 歳の左腕・後藤希友投手が現れました。どんな場面でも表情を変えることなく、むしろ緊張やプレッシャーを楽しんでいるかのようにしっかりと腕を振り、圧巻の「奪三振ショー」を繰り広げ、日本を勝利に導いてくれました。まさに「救世主」です。彼女を中学時代から代表チームに加え、育成・成長を促し、見守り、指導してきた強化スタッフ・コーチングスタッフの「慧眼」と「英断」に拍手を贈りたいと思います。また、それに見事に応えた後藤投手の奮闘・覚醒に心からの賛辞を贈りたいと思っています。異例の「無観客開催」の中ではありましたが、外連味のないピッチングは日本中を熱気と興奮に包み、「新たなスター」が誕生した瞬間であり、今後、日本ソフトボール界発展のためにさらなる活躍してくれることを大いに期待いたします。

さて、多くの成果と感動を残した「東京 2020 オリンピック」は無事に終わりましたが、喫緊の課題は、オリンピック競技から除外されたソフトボールを今後どのように普及・発展させていくのか……ということになります。私の幼少期はソフトボールが盛んで、日常的に空き地や小学校・中学校の校庭や地域のグラウンドで、老若男女が楽しんでいました。そんな当たり前の光景を、現在ではほとんど目にすることはできなくなってしまっています。時代も変わり、セキュリティや安全上・防犯上の理由等で様々な制約が存在することは理解していますが、同時に寂しさを覚えます。ソフトボールは本来、誰でも気軽に楽しめる安全・安心な競技であり、子どもたちから高齢者まで、それぞれの世代が生涯を通じて楽しめるスポーツでもあります。このソフトボールの「良さ」「特徴」をもっともっと強くアピールし、かつての光景を少しでも取り戻すよう努力しなければなりません。

その第一弾として、女子の新リーグを「J D . リーグ」として 2022 年春に立ち上げて、開催していきます。オリンピックでの金メダルを弾みとして、参加 16 チームがしのぎを削りながら持てる技術を一層向上させ、関係者一丸となって「世界一のリーグ」をめざして行きますので、今後のリーグの展開・熱気・熱量にもご期待ください。

一方、男子ソフトボールはオリンピック競技であった女子ほど注目されておませんが、世界選手権では 2 度、準優勝した実績があります。男子活性化事業の推進によって、より関連な意見交換を行い、新たな提案を積極的に取り入れて、改革に取り組んでいく所存です。そして、男子の日本代表チームにも、「悲願」の「ワールドカップ初制覇」「世界一」の実現を果たしてもらいたいと思っています。さらには、男子ソフトボールが「メジャースポーツ」としてスポットを浴び、注目が集まるという状況の実現、「大願成就」に向けて全力を尽くしてまいります。女子だけでなく、男子のさらなる普及・発展、活性化へ向けたご理解・ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、私ども日本協会が男女とも世界トップレベルの競技力を維持し、日本リーグをはじめ多くの全日本大会を運営できておりますのも、長年ご尽力されてきた諸先輩方のたゆまぬ努力の賜物であると心より感謝致しております。

「次なる時代」に向けては、これまでソフトボール界が 70 有余年築き上げてきた実績を踏襲しながらも、変遷する時代に柔軟に対応して、男女ソフトボール並びに当協会が更に発展するよう努力を重ねていく所存でありますので、どうかよろしく願いいたします。

東京 2020 オリンピックへ向けた強化の総括と
伝えるべき「オリンピックレガシー」

(公財) 日本ソフトボール協会 選手強化本部長 矢端信介

2007 年 6 月、第 8 回世界女子ジュニア選手権大会が、オランダ・エンスヘーデというドイツとの国境に近い都市で開催されました。私が「世界」を初めて経験した瞬間でした。

峰幸代主将（東京 2020 オリンピック日本代表）を守備の要に置いた日本伝統の鉄壁の守備陣と、山本優（東京 2020 オリンピック日本代表）、森さやか（東京オリンピック 2020 日本代表）等を擁した強力な打線は、アメリカ代表と共に「優勝候補」の筆頭に挙げられていましたが、結果は残念ながら決勝戦でアメリカ代表に 1－3 の逆転負けを喫し、世界女子ジュニア選手権大会「初」となる 3 連覇をも逃す悔しい大会となってしまいました。

翌 2008 年には北京オリンピックが開催され、今でも語り草になっている上野由岐子投手「魂の 413 球」で、宿敵アメリカ代表を下して悲願の金メダルを獲得。私の中で、勝手に溜飲を下げさせてもらったことを覚えています。ちなみに上野投手の「女房役」は前年一緒に戦った峰捕手でした。

2008 年 10 月 6 日、私の「人生の分岐点」ともなる日本で初めての国際コーチ養成事業「JOC ナショナルコーチアカデミー」がスタートし、私もその栄えある第一回の受講生に選ばれました。そして、22 名の受講生が「味の素ナショナルトレーニングセンター」に集結。主な受講生は尾縣貢氏（JOC 常務理事 選手強化本部長・東京オリンピック総監督）、佐々木則夫氏（元なでしこジャパン監督）、村上恭和氏（日本生命卓球部監督・元日本女子代表監督）、中村健次氏（東京オリンピックセーリング競技日本代表選手団監督）等、その後の「世界のトップコーチ」となるスポーツ界の精鋭・俊英が勢揃い。講習期間は全 11 週間、その中でも北岡俊明先生の「ディベート論」及びその実践事業は衝撃であったと同時に、「東京 2020 オリンピック強化 5 カ年計画」を策定する発想の原点ともなった貴重な経験となりました。

2014 年 12 月 8 日、国際オリンピック委員会総会（IOC）において、五輪改革案「アジェンダ 2020」が承認されたことを受け、翌 9 日、IOC トーマス・バハ会長が記者会見を開き、「開催都市の組織委員会から、新たに五輪種目の追加提案ができる」との談話が発表され、五輪の舞台への「野球・ソフトボールの復活」がいよいよ現実味を帯びてきました。

これに協会もいち早く反応、三宅豊選手強化本部長（現会長）から直ちにオリンピック競技復帰を前提とした強化計画策立案の指示が出され、当月 22 日の選手強化本部会まで「突貫作業」でその原案を完成させたことが思い出されます。以下が策定当時（2014 年 12 月）の強化計画（案）の「2 本柱」であり、そして、下図が当時の組織改革（案）の草案となります。

I・Road to Tokyo(案)

五輪強化計画の要旨

Mission statement(宣言)

東京五輪で金メダルを獲得する

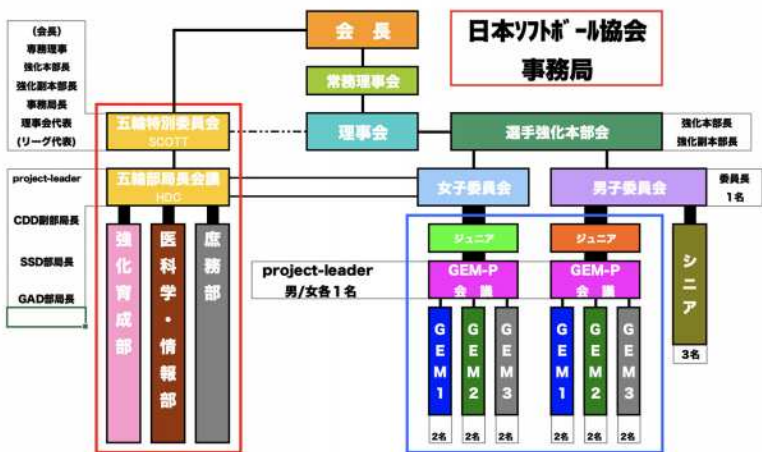
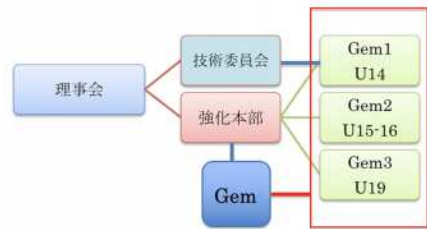
- 五カ年計画の立案
- 新しい機関の立ち上げ
 - 意思決定のスピード化→SCOTT(企画立案機関)
 - 才能の選出 & 客観性→COS(選考委員会)
 - 情報戦略→IST(医科学 support/情報収集分野 医科学的分析 他)

II・Road to Future(案)

Mission statement(宣言)

五輪後を見据えた世界一の維持

- 計画名
Gem Project(ジェム プロジェクト)
- 新機関の設置
Jr.強化の TF(Task Force)の新設
→Special Committee Gem(Gem 委員会)
Jr.élite 教育機関の設置
→Gem Academy(Gem アカデミー)



Road to Tokyo
栄光への道

Road to future
未来への希望



2016 年 10 月 18 日、厳正な選考の結果、東京 2020 オリンピックヘッドコーチ（監督）が宇津木麗華氏に内定（正式決定は翌月の理事会にて）。2015 年～ 2016 年にかけてターゲット・エイジ・プロジェクト（Target Age Project の頭文字をとり、通称「TAP」（タッパ）と呼称された）によって選考された選手を中心に、強化選手 40 名による Road To Gold Medal が再スタートを切りました。年間 170 日にも及ぶ強化合宿、海外遠征、国際大会参加、2016 年第 15 回世界選手権大会（カナダ:サレー）、2018 年第 16 回世界選手権大会（千葉県下四市で開催）等々、想像を絶するタイトでハードなスケジュールに選手もスタッフも歯を食いしばって耐えました。それは「自国開催のオリンピックで金メダルを獲得する」という「大きな目標」があり、それが我々の「ミッション」であるのとらえていたからに他なりません。

そして……運命の 2020 年を迎え、1 月はオーストラリア・シドニー近郊のブラックタウン（2000 年シドニーオリンピックの会場となった場所）で開催された「オーストラリアパシフィックカップ」へ出場し、日本代表は「全勝」で優勝。オリンピックイヤーを順調に滑り出したかに見えました。

2 月にはアメリカ・グアムへ移動して海外強化合宿を実施。3 月 23 日に予定していた「東京 2020 オリンピック日本代表選手発表」に向け、すべてのスケジュールが順調に進んでいました。

この頃、新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の蔓延が取沙汰されてはいましたが、当時はそれほど深刻には捉えてはおりませんでした。しかし……日を追うごとに状況は悪化の一途を辿り、「最終選考」の場と考えていた 3 月 4 日からの沖縄合宿が中止となったのを皮切りに、オリンピック選手発表を見合わせる事態となり、3 月 28 日、「まさか……」のオリンピック延期が正式発表されるに至りました。

思いもよらぬ事態に「頭の中が真っ白」になりましたが、各選手所属先、各合宿先への中止連絡等々、発表からの 1 週間は目の回るような忙しさに振り回され、今後に対する不安に苛まれる日々を送りました。

4 月 7 日には日本全国一斉に「緊急事態宣言」が発出。出勤停止、事務局閉鎖、虚無感のみに支配され……コロナ禍は一進一退、第一波、第二波と収まる気配はありませんでしたが、それでも前半戦中止となった日本リーグ後半戦を無観客で開催することができ、その間、日本協会でも COVID-19 に関するガイドラインを作成し、選手強化本部でも更に厳正なるガイドラインを策定。強化事業再開に向けての準備を進めていきました。

強化事業が再開されたのは 11 月中旬、日本リーグ決勝トーナメントが終了した翌日 11 月 17 日、オリンピック会場となる横浜スタジアムで「第 1 次国内強化合宿」をスタートさせ、その後、群馬県高崎市に移動して合宿を行い、第 2 次（高知県高知市）、第 3 次（沖縄県読谷村）と順調に強化合宿を積み重ねました。

年明けに予定していた第 4 次国内強化合宿（高知県高知市）が再び「緊急事態宣言」が発出されたこともあり、中止を余儀なくされてしまいましたが、2020 年度「最後」となる強化事業・第 5 次国内強化合宿（沖縄県読谷村）は最終選考のため「絶対」に開催する必要があります。そのためには、各選手が感染防止の自覚と強い責任感を持つ必要があり、2 月から 1 ヶ月間、毎週末にチームミーティング（スタッフ・選手全員）をリモート（オンライン）で実施して、コンディションチェックや感染防止のための注意喚起を徹底。同時に宇津木麗華ヘッドコーチ、私と遠藤拓哉メンタルトレーナー（ハイパフォーマンススポーツセンター）とで各チームを巡回。その努力の甲斐あって、第 5 次国内強化合宿は無事に実施することができ、3 月 23 日、「東京 2020 オリンピック」ソフトボール競技、日本代表選手 15 名の記者発表をリモート（オンライン）で行うことができました。

2021 年 5 月 17 日から第 1 次国内強化合宿（群馬県高崎市）、第 2 次国内強化合宿を同じく群馬県高崎市で実施。7 月 15 日には東京晴海の選手村へ入村し、7 月 19 日、「決戦の地」福島県福島市へと向かい、晴海選手村から東京駅までは貸し切りバス移動、車窓から見る東京の風景はとてもオリンピックを 4 日後に控えた雰囲気とは思えない、日常の見慣れた通勤風景でしかありませんでした。東京駅バス降車場所から新幹線ホームまでは両サイドを厳重にガードされ、まさに「VIP 待遇」「要人警護」さながらの移動となりました。通勤時間と重なったこともあり、迷惑そうな視線が容赦なく突き刺さり、コロナ禍の世情、この状況でオリンピックを開催するのか……という世論を表しているかのように感じました。

7 月 21 日、すべての競技に先立って、福島あづま球場で「東京 2020 オリンピック」が「異例」の「無観客開催」で開幕し、初戦のオーストラリア戦、メキシコ戦を終えた後、神奈川県横浜市の横浜スタジアムに移動。7 月 27 日、「13 年越し」となる 2 大会連続の金メダルを手にし、5 年間にわたる壮大なミッションを「最高の形」で完結することができました（試合の詳細は本誌 4～ 15 頁に掲載）。

2017 年 4 月 1 日、32 年間の教員生活に別れを告げて、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）雇用のナショナルコーチとして強化一辺倒の毎日となり、様々な関係会議に出席し、聞き慣れない単語に四苦八苦「マスト?」「マター?」「インティグリティ???」etc……中でも「アントラージュ」という言葉が一番理解できませんでした。しかし……今ではその言葉が一番理解できますし、大切にしている言葉でもあります。

「アントラージュ」とはフランス語で「取り巻き」「環境」という意味で、競技環境を整備し、チームがパフォーマンスを最大限発揮できるよう、連携協力する関係者のことを定義しています。東京オリンピックでの金メダル獲得は、スタッフ・選手・合宿地の皆さま・協会関係者・支部協会の皆さま、そして国民の皆さま含めたすべての「アントラージュの勝利」であると、ここに断言させていただきます。

皆さま、本当にありがとうございました。

そして……オリンピック競技から再び除外されてしまうソフトボールにとっては、この「金メダル」は決して「ゴール」ではなく、オリンピック競技への復帰・復活に向けた、さらなる競技の普及・発展へ向けた「スタート」であることを肝に銘じ、今後どのような立場になったとしても、この経験を「オリンピックレガシー」として次世代へ受け継ぎ、つなげていくこと、これこそが私の新たな「ミッション」であり、この「ミッション」を完遂すべく全力で取り組んでいきたいと思っています。



金メダルへの道のり ～ 感謝 ～

東京 2020 オリンピック ソフトボール競技
日本代表ヘッドコーチ 宇津木麗華

まず初めに皆さまに伝えたいことは、世界中がコロナ禍で大変な状況の中、一年延期となりましたが、「東京 2020 オリンピック」を開催していただいたことに、心より感謝申し上げたい、ということです。

組織委員会をはじめ、たくさんのボランティアの方々に支えられて、私たちは「金メダル」という最高の結果を残すことができました。本当にありがとうございました。

私は 1988 年に中国から日本に帰化をし、そこから「日本のソフトボールを強くしたい!」という一心でここまで突き進んでまいりました。選手時代はシドニー、アテネオリンピックを経験し、「世界」の舞台で勝つことの難しさ、競技レベルの高さ、強さ、壁の高さ・厚さを肌で感じ、身をもって体験してきました。2004 年に現役を引退し、私はコーチング理論やマネジメント、心理学などを必死に勉強してきました。

そして……2016 年 11 月 21 日、この「東京 2020 オリンピック」のヘッドコーチ（監督）に就任し、5 年間にわたる道のりがスタートしました。

私自身がヘッドコーチになり、一番初めに選手たちに伝えたこと、それは「人間力」です。
「人間力無くして競技力向上なし」これは実際に私がコーチング研修を受けている時に学んだ言葉でした。「自分さえ良ければいい」と言う考えではチームは成り立ちません。ソフトボールの試合に「表」と「裏」があるように、自分が表舞台で活躍するだけでなく、時には「裏」に回ってチームのために働くことも必要になります。例えば、「犠打」という言葉があるように自らを犠牲にし、走者を進めるということも戦略の一つになります。これは投手戦の緊迫した試合になればなるほど、自らを犠牲にしても出塁した走者をいかに先の塁に進めるのが、重要な戦術になるわけです。これを選手たちに伝え、理解させ、打者のタイプなど関係なしに全員で練習に取り組みました。それが功を奏し、実際に東京五輪でも選手たちは「緊迫した場面」に立たされてもサインプレーを忠実に実行し、成功させてくれました。それが大きな勝因の一つになっていると私は思っています。

私が「東京 2020 オリンピック」へ向けた日本代表ヘッドコーチに就任した後、最初の戦いは 2018 年に千葉で行われた「第 16 回世界女子選手権大会」でした。この大会は「東京 2020 オリンピック」の「前哨戦」という位置づけでしたが、私はあえて作戦らしい作戦を使いませんでした。なぜならアメリカをはじめ相手チームがどんな作戦で臨んでくるのか、相手の手の内を見なかったからです。あの 2018 年の世界選手権で打った布石が、今回の「東京 2020 オリンピック」ではアメリカだけでなく、オーストラリアやカナダとの試合でも生きました。特に日本にとって「最大のライバル」であるアメリカは、その 2018 年の世界選手権、3 年前と戦い方がほとんど変わりませんでした。だからこそ、私たちは勝つことができたと思っています。

いろんな方から今回の「東京 2020 オリンピック」でのアメリカは「本調子ではなかったのですか?」「過去のチームに比べるとチーム力が落ちていたのでは……」等と聞かれますが、そんなことはありません。アメリカは能力の高い素晴らしい選手を揃えていますし、本当に強いチームでした。しかし「世界選手権」という大会で、私はある意味いろんなことをテストしました。「打たれてもいい」「負けてもいい」とまでは言いませんが、その分、相手打者の癖や特徴を把握する。結果として、決勝で日本が負けて、アメリカが優勝しました。仮に日本が勝ってアメリカが負けていれば、向こうは「東京 2020 オリンピック」に向けて、すべてのやり方を変えてきたかもしれません。そうなったら、私たちもアメリカとの戦いをシミュレーションし直して、あらゆる準備を改めてやり直す……そんな事態になることもあり得ました。

「東京 2020 オリンピック」での金メダル獲得という「大きな目標」があって、そこに至るまでの過程、プロセスにおいての「勝利」は「本当の勝利」ではありません。最後の最後に勝ってこそ「真の勝利」だと私は思っています。3 年前にアメリカ代表監督（ケン・エリクセンさん）の戦略や戦術、そして「どんな作戦を持っているのか」を私は知りたかった。決勝進出をかけたセミ・ファイナルとゴールドメダルマッチ（決勝）の 2 試合を戦い、結果は 2 試合とも延長タイブレークになって、アメリカがサヨナラ勝ちしました。私は極端な話、「相手を観察する」ことに徹していて、座ったままほとんど動きませんでした。藤田倭と上野由岐子にそれぞれ 1 試合を任せました。逆に米国は複数の投手をどんどんつぎ込んできました。改めて振り返ると、「東京 2020 オリンピック」でのアメリカは 3 年前とあまり変わっていませんでした。やはりコロナの影響で 2 年間の「空白期間」ができたのも大きかったのではないかと思います。それでも、準備したことが無駄になったとは決して思いません。「準備として 100 必要なら 2 倍の 200 の引き出しを用意する」。それが私のルール、指導者としての「流儀」であり、「覚悟」でもあります。

また、私は今回「完璧な 15 人」を選びました。何が完璧か、それは「守備力」です。打撃力は正直、どのチームも変わりません。各チームとも強力な投手を擁しており、そうそう簡単に点は取れません。特にソフトボールはピッチャーとの相性が悪いと、どんなにいいバッターでもなかなか打てません。そこで大事になるのが守備です。



写真提供 / 毎日新聞社

今回、金メダルを手にすることができた一番の要因は「守備力」だと思っています。その点で、渥美万奈の存在は本当に大きかったです。皆さん、アメリカとの決勝戦での「神ゲッツー」が最も印象深いでしょうが、実は序盤の 2 回裏にピッチャーゴロで「1（ピッチャー：上野由岐子）-6（ショート：渥美万奈）-3（ファースト：内藤実穂）」でダブルプレー（ゲッツー）を完成させた守備がありました。この連係こそが、本当に素晴らしい瞬間であり、日本が誇る守備力の「真骨頂」だったのです。

実は渥美万奈自身「神ゲッツー」よりも、そのゲッツーを成功させた、あの守備の方が最高だったと振り返っていました。あの試合こそ、本当によく守り切った「日本らしい」試合でした。

初回、一死三塁からキャッチャーの我妻悠香が後ろに逸らした球が、ホームベース後方のラバーに当たってはね返ってきましたが、これを我妻悠香が処理して本塁のベースカバーに入ったピッチャーの上野由岐子に完璧なトス。本塁に突入してきた三塁走者をタッチアウトにしました。それと前述の 2 回裏のダブルプレー。そして最後が 6 回裏の「神ゲッツー」です。

最後の「神ゲッツー」は、サードの山本優が腕に当てたボールをショートの渥美万奈が好捕して、瞬時に反転して二塁へ送球。神懸かり的な併殺プレーを完成させました。打球に追いついて捕球した渥美万奈が送球しようと振り向いたら、二塁ベースカバーに市口侑果が入っていました。私の中では、この三つのプレーが「三点セット」になっています。普段から守備の連係、コミュニケーションが確立されていたからこそ、金メダルのかかった「大一番」で、何事もなかったかのように「自然なプレー」ができたのです。今、改めて振り返ってみても、「日々の積み重ね」「日頃の練習」の賜物であると感じる次第です。

そして……私の近くでたくさん支えてくれたスタッフの皆さんには感謝しかありません。現場だけではなく、裏方の仕事を全うしチームを支えてくれていたコーチ、トレーナー、寝る間も惜しんで情報収集、編集をしてくださった NTT の皆さん、情報スタッフのメンバーなど、ここには書ききれない程の多くの皆さんがこのチームを支え、力を尽くし、「金メダル」「世界一」に導いてくれました。この 13 年越しに獲得した金メダルは「みんなの力」で勝ち取ったものだとは私は思っています。

最後になりましたが、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）および（公財）日本ソフトボール協会、関係者の皆様の多大なるご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。これからもソフトボール界の発展のために「自分にできること」に全力で取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



写真提供 / WBSC

大会を支えてくださった皆さん

ソフトボールがオリンピック競技となって、初めて大会の「ホスト」として、参加各国の選手・スタッフ、チームの皆さんを迎えた「東京 2020 オリンピック」。素晴らしいプレーを見せてくれた選手たちとともに、大会を支えてくれた審判員、記録員、大会運営に尽力してくださった皆さんがいたことを忘れてはならない。異例の「無観客開催」となる中、新型コロナ対策に細心の注意を払い、万全の態勢で臨むべく最善を尽くし、「大会の成功」に向けて奔走・奮闘した「陰の主役」の存在がいたことを、改めてここに記しておきたい。

Technical Commission

栗山利宏 / 生方純夫 / 月岡周郎

Technical Director Liaison

生原 都

TC Liaison

岡野秀子 / 須田冴子

Umpire

笹島綾花 / 草本光伯 / 矢部美樹

UMP Liaison

橋本 隆 / 濱崎哲一

Scorer

八木美代子 / 石黒靖之 / 徳井亜加根

OMEGA Scorer

前田淳子 / 田中明美 / 中谷昇明 / 樺島裕子

FOP Specialist (Fukushima)

安倍誠一 / 本田 淳 / 手塚英勝 / 星 正信 / 矢吹仁孝

FOP Specialist (Yokohama)

松山玲子 / 廣瀬正春

Training Venue Specialist

西藤優美

FOP Specialist (FKS & YOK)

仁井田 寿

Technical Administration Official

柳田信也 / 中村藍子

NF Relations

山内亜美 / 久下知宏



Umpire





Scorer

Technical Commission



本誌への写真提供及び編集協力はもとより、
マスメディアの立場で日本のソフトボールを支え、盛り上げてくださり
感謝いたします。



スポーツニッポン新聞社

ソフトボールがオリンピック競技になる前から「日本女子ソフトボールリーグ」を
後援。アメリカをはじめオーストラリア、カナダ、メキシコ等から「世界トップク
ラス」の選手が来日・プレーしたことで日本の競技レベルは飛躍的に向上しました。



毎日新聞社

「世界のTOP4を集めて大会を！」と「JAPAN CUP」を創設。2002年から東日
本大震災の影響による中断期間はあったものの、オリンピック開催年以外は毎年開
催、日本は「JAPAN CUP」で世界のレベルを体感し、それが金メダルへとつなが
りました。



読売新聞社

2016年から「日米対抗」を開催。「最強のライバル」アメリカとの対戦機会が増え
たことで、情報収集・戦力分析が進み、その「対策」の立案・実践が13年越しとな
る2大会連続の金メダル獲得に直結しました。

日本女子ソフトボール 東京 2020 オリンピック記念誌

2022年（令和4年）2月27日発行
編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

不許複製 / 非売品

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square
TEL 03-5843-0480 FAX 03-5843-0485

落丁・乱丁本はお取り替え致します。

制作 株式会社 日本体育社

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501
TEL.03-3811-6911 FAX.03-3811-6290

デザイン・レイアウト ウノーアソシエイツ
印刷・製本 カシヨ株式会社